

指定管理者制度導入施設に係るモニタリング結果の概要

指定管理者制度を導入している公の施設について、令和5年度の管理運営状況等のモニタリングを実施しましたので、その結果をお知らせします。

1 モニタリングの目的

指定管理者が施設を適切に管理運営しているか状況を確認するとともに、導入の目的であるサービスの質の向上や効率的な運営について、その達成の度合いを測定し、指定管理者制度の効率的な運用を図る。

2 モニタリング対象施設

指定管理者制度を導入している公の施設（計 176 施設）

※ 導入施設一覧については、2 ページ参照

3 モニタリング項目

- (1) 管理業務の実施状況
- (2) 施設利用実績
- (3) 利用促進に向けた新たな取組
- (4) 収支結果
- (5) サービスの質の評価（利用者満足度調査結果等）
- (6) 課題と改善方策等
- (7) 労働条件・環境

令和5年度 指定管理者制度導入施設一覧

種類	施設名	施設数	設置条例	指定管理者	指定期間	選定方法		利用料金制度	所管課・室
						公募	従前		
1	大島防災センター	1	山口県防災センター条例	周防大島町	R5. 4. 1～R10. 3. 31		新規	○	防災危機管理課
2	セミナーパーク	1	山口県セミナーパーク条例	(公財) 山口県ひとつづくり財団	R3. 4. 1～R8. 3. 31	○	委託	○	政策企画課
3	やまぐち県民活動支援センター	1	山口県県民活動支援センター条例	NPO法人やまぐち県民ネット21	R3. 4. 1～R8. 3. 31	○	委託		県民生活課
4	ビジターセンター (豊田湖)	1	山口県自然公園施設条例	下関市	R3. 4. 1～R8. 3. 31		委託		自然保護課
	ビジターセンター (須佐湾)	1	山口県自然公園施設条例	秋市	R3. 4. 1～R8. 3. 31		委託		自然保護課
	ビジターセンター (角島)	1	山口県自然公園施設条例	下関市	R3. 4. 1～R8. 3. 31		委託		自然保護課
	ビジターセンター (秋吉台)	1	山口県自然公園施設条例	美祢市	R3. 4. 1～R8. 3. 31		委託		自然保護課
5	きらら浜自然観察公園	1	山口県立自然観察公園条例	NPO法人野鳥やまぐち	R3. 4. 1～R8. 3. 31	○	委託	○	自然保護課
6	健康づくりセンター	1	山口県健康づくりセンター条例	(公財) 山口県健康福祉財団	R3. 4. 1～R8. 3. 31	○	委託	○	健康増進課
7	聴覚障害者情報センター	1	身体障害者社会参加支援施設条例	(福) 山口県聴覚障害者福祉協会	R3. 4. 1～R8. 3. 31		委託		障害者支援課
	身体障害者福祉センター	1	身体障害者社会参加支援施設条例	(公社) 山口県障害者スポーツ協会	H31. 4. 1～R6. 3. 31	○	直営		障害者支援課
8	みほり学園	1	児童福祉施設条例	(福) 山口県社会福祉事業団	R3. 4. 1～R8. 3. 31		委託		こども家庭課
9	母子・父子福祉センター	1	山口県母子・父子福祉施設条例	(一財) 山口県母子寡婦福祉連合会	R3. 4. 1～R8. 3. 31		委託		こども家庭課
10	国際総合センター	1	山口県国際総合センター条例	(一財) 山口県国際総合センター	R3. 4. 1～R8. 3. 31	○	委託	○	イノベーション推進課
11	山口しごとセンター	1	山口県しごとセンター条例	(株) 日本マンパワー	R2. 4. 1～R7. 3. 31	○	直営		労働政策課
12	下関武道館	1	山口県スポーツ交流まちづくり拠点施設条例	ミズノグループ	R3. 4. 1～R8. 3. 31		新規	○	スポーツ推進課
	スポーツ交流村	1	山口県スポーツ交流まちづくり拠点施設条例	(公財) 山口県ひとつづくり財団	R3. 4. 1～R8. 3. 31	○	委託	○	スポーツ推進課
13	美術館	1	山口県立美術館条例	サントリーパブリシティサービスグループ	R3. 4. 1～R8. 3. 31	○	直営	○	文化振興課
	萩美術館・浦上記念館	1	山口県立美術館条例	サントリーパブリシティサービスグループ	R3. 4. 1～R8. 3. 31	○	直営	○	文化振興課
14	県民文化ホールいわくに	1	山口県民文化ホール条例	サントリーパブリシティサービスグループ	R3. 4. 1～R8. 3. 31	○	委託	○	文化振興課
15	秋吉台国際芸術村	1	山口県芸術村条例	(公財) 山口きらめき財団	R3. 4. 1～R8. 3. 31	○	委託	○	文化振興課
16	県民芸術文化ホールながと	1	山口県民芸術文化ホール条例	(公財) 長門市文化振興財団	R3. 4. 1～R8. 3. 31		委託	○	文化振興課
17	埋蔵文化財センター	1	山口県埋蔵文化財センター条例	(公財) 山口県ひとつづくり財団	R3. 4. 1～R8. 3. 31	○	委託		文化振興課
18	やまぐちフラワーランド	1	山口県フラワーランド条例	(一財) やない花のまちづくり振興財団	R3. 4. 1～R8. 3. 31	○	新規	○	農業振興課
19	栽培漁業センター (外海)	1	山口県栽培漁業センター条例	(公社) 山口県栽培漁業公社	R3. 4. 1～R8. 3. 31	○	委託		水産振興課
	栽培漁業センター (外海第二)	1	山口県栽培漁業センター条例	(公社) 山口県栽培漁業公社	R3. 4. 1～R8. 3. 31	○	委託		水産振興課
	栽培漁業センター (内海)	1	山口県栽培漁業センター条例	(公社) 山口県栽培漁業公社	R3. 4. 1～R8. 3. 31	○	委託		水産振興課
20	漁港施設 (徳山漁港プレジャーボート用浮桟橋等)	1	山口県漁港管理条例	山口県漁業協同組合	R3. 4. 1～R8. 3. 31	○	委託	○	漁港漁場整備課
	漁港施設 (見島漁港可動橋)	1	山口県漁港管理条例	萩市	R3. 4. 1～R8. 3. 31		委託	○	漁港漁場整備課
	漁港施設 (見島漁港宇津多目的広場)	1	山口県漁港管理条例	萩市	R3. 4. 1～R8. 3. 31		委託	○	漁港漁場整備課
21	都市公園 (維新百年記念公園)	1	山口県立都市公園条例	(一財) 山口県施設管理財団	R2. 4. 1～R7. 3. 31	○	委託	○	都市計画課
	都市公園 (片添ヶ浜浜浜公園)	1	山口県立都市公園条例	周防大島町	R3. 4. 1～R8. 3. 31		委託	○	都市計画課
	都市公園 (萩ウェルネスパーク)	1	山口県立都市公園条例	萩市	R3. 4. 1～R8. 3. 31		委託	○	都市計画課
	都市公園 (山口きらら博記念公園)	1	山口県立都市公園条例	きらら未来創発パートナーズ	H31. 4. 1～R6. 3. 31	○	直営	○	山口きらら博記念公園 交流拠点化推進室
22	流域下水道 (周南)	1	山口県流域下水道条例	総合設備管理 (株)	R3. 4. 1～R8. 3. 31	○	委託		都市計画課
	流域下水道 (田布施川)	1	山口県流域下水道条例	総合設備管理 (株)	R3. 4. 1～R8. 3. 31	○	委託		都市計画課
23	港湾施設 (岩国港新港運動公園)	1	山口県港湾施設管理条例	岩国市	R3. 4. 1～R8. 3. 31		委託		港湾課
	港湾施設 (室津港室津港湾施設)	1	山口県港湾施設管理条例	上関町	R3. 4. 1～R8. 3. 31		新規	○	港湾課
	港湾施設 (平生港水場地区物揚場等)	1	山口県港湾施設管理条例	平生町	R3. 4. 1～R8. 3. 31		委託	○	港湾課
	港湾施設 (徳山下松港はなぐり緑地)	1	山口県港湾施設管理条例	下松市	R3. 4. 1～R8. 3. 31		委託		港湾課
	港湾施設 (徳山下松港下松埠頭公園)	1	山口県港湾施設管理条例	下松市	R3. 4. 1～R8. 3. 31		委託		港湾課
	港湾施設 (徳山下松港洲鼻船だまり)	1	山口県港湾施設管理条例	下松市	R2. 4. 1～R7. 3. 31		新規	○	港湾課
	港湾施設 (徳山下松港晴海緑地公園)	1	山口県港湾施設管理条例	周南市	R3. 4. 1～R8. 3. 31		委託		港湾課
	港湾施設 (徳山下松港瀬ヶ浜船だまり)	1	山口県港湾施設管理条例	周南市	R3. 4. 1～R8. 3. 31		新規		港湾課
	港湾施設 (徳山下松港築港緑地)	1	山口県港湾施設管理条例	周南市	R4. 2. 1～R8. 3. 31		新規		港湾課
	港湾施設 (三田尻築港地港湾施設)	1	山口県港湾施設管理条例	防府市	R3. 4. 1～R8. 3. 31		委託		港湾課
	港湾施設 (三田尻港三田尻緑地公園)	1	山口県港湾施設管理条例	防府市	R3. 4. 1～R8. 3. 31		新規		港湾課
	港湾施設 (萩港浜崎物揚場等)	1	山口県港湾施設管理条例	萩市	R3. 4. 1～R8. 3. 31		委託	○	港湾課
	港湾施設 (萩港瀬港緑地)	1	山口県港湾施設管理条例	萩市	R3. 4. 1～R8. 3. 31		委託		港湾課
港湾施設 (萩港瀬港港湾施設)	1	山口県港湾施設管理条例	(株) マリーナ萩	R3. 4. 1～R8. 3. 31		委託	○	港湾課	
24	県営住宅等	79	山口県営住宅条例等	(一財) 山口県施設管理財団	R2. 4. 1～R7. 3. 31	○	直営		住宅課
	県営住宅等	41	山口県営住宅条例等	(一財) 山口県施設管理財団	R2. 4. 1～R7. 3. 31	○	委託		住宅課
	県営住宅等	1	山口県営住宅条例等	(一財) 山口県施設管理財団	R2. 4. 1～R7. 3. 31	○	新規		住宅課
	県営住宅等	1	山口県営住宅条例等	(一財) 山口県施設管理財団	R3. 6. 1～R7. 3. 31		新規		住宅課
25	青少年自然の家 (油谷)	1	山口県青少年自然の家条例	(株) F E E L	R3. 4. 1～R8. 3. 31	○	委託	○	学校運営・施設整備室
	青少年自然の家 (秋吉台)	1	山口県青少年自然の家条例	(公財) 山口県ひとつづくり財団	R3. 4. 1～R8. 3. 31	○	委託	○	学校運営・施設整備室
	青少年自然の家 (十種ヶ峰)	1	山口県青少年自然の家条例	(公財) 山口県ひとつづくり財団	R3. 4. 1～R8. 3. 31		委託	○	学校運営・施設整備室
	青少年自然の家 (由宇)	1	山口県青少年自然の家条例	(公財) 山口県ひとつづくり財団	R3. 4. 1～R8. 3. 31	○	委託	○	学校運営・施設整備室
合 計			25種類 176施設						

各施設のモニタリング概要

	頁		頁
○ 大島防災センター	4	○ 見島漁港宇津多目的広場	35
○ セミナーパーク	5	○ 維新百年記念公園	36
○ やまぐち県民活動支援センター	6	○ 片添ヶ浜海浜公園	37
○ 豊田湖ビジターセンター	7	○ 萩ウェルネスパーク	38
○ 須佐湾ビジターセンター	8	○ 山口きらら博記念公園	39
○ 角島ビジターセンター	9	○ 周南流域下水道	40
○ 秋吉台ビジターセンター	10	○ 田布施川流域下水道	41
○ きらら浜自然観察公園	11	○ 岩国港 新港運動公園	42
○ 健康づくりセンター	12	○ 室津港 室津港湾施設	43
○ 聴覚障害者情報センター	13	○ 平生港 水場地区物揚場等	44
○ 身体障害者福祉センター	14	○ 徳山下松港 はなぐり緑地	45
○ みほり学園	15	○ 徳山下松港 下松埠頭公園	46
○ 母子・父子福祉センター	18	○ 徳山下松港 洲鼻船だまり	47
○ 国際総合センター	19	○ 徳山下松港 晴海緑地公園	48
○ 山口しごとセンター	21	○ 徳山下松港 櫛ヶ浜船だまり	49
○ 下関武道館	22	○ 徳山下松港 築港緑地	50
○ スポーツ交流村	23	○ 三田尻港 築地港湾施設	51
○ 美術館	24	○ 三田尻港 三田尻緑地公園	52
○ 萩美術館・浦上記念館	25	○ 萩港 浜崎物揚場等	53
○ 県民文化ホールいわくに	26	○ 萩港 潟港緑地	54
○ 秋吉台国際芸術村	27	○ 萩港 潟港施設	55
○ 県民芸術文化ホールながと	28	○ 県営住宅等	56
○ 埋蔵文化財センター	29	○ 油谷青少年自然の家	58
○ やまぐちフラワーランド	30	○ 秋吉台青少年自然の家	59
○ 栽培漁業センター(外海、外海第二、内海)	32	○ 十種ヶ峰青少年自然の家	60
○ 徳山漁港プレジャーボート用浮棧橋等	33	○ 由宇青少年自然の家	61
○ 見島漁港可動橋	34		

指定管理施設名	大島防災センター				
指定管理者名	周防大島町				
指定期間	令和5年4月1日～令和10年3月31日				
管理業務の実施状況	指定管理業務	維持管理業務	利用業務	自主運営業務	
	業務内容	○清掃業務 ○保守点検業務 ○修繕業務	○受付業務 ○利用促進業務 ○飲食提供業務	○防災に関する研修業務 ○防災に関する相談及び情報の提供業務	
	実施状況	○良好に実施している。	○良好に実施している。	○良好に実施している。	
	未履行の有無	無	無	無	
施設利用実績	利用者数(人)	令和4年度	5,260		
		令和5年度	6,090		
		増減	830		
	実績の分析	○利用者数は前年度と比較して約16%増えた。 ○一般来館者は3,863人で、前年度より58人減少しているが、多目的ホール・会議室の利用者は2,227人で、前年度より888人増加した。			
利用促進に向けた新たな取組	○特記事項なし				
収支結果	科目	予算額(円)	決算額(円)	差異(円)	
	収入	27,279,000	27,342,538	63,538	
	支出	27,279,000	27,342,538	63,538	
	差引(収入-支出)	0	0	0	
	○収入：利用者が増えたことにより増額した。 ○支出：利用者が増えたことによる光熱水費等の増額がある中、安定した運営を行えるよう、計画的な経費執行に努めた。				
サービスの質の評価 (利用者満足度調査結果等)	○適正にサービスを実施している。				
課題と改善方策等	前年度までの改善方策に対する取組状況	○出前講座や掲示物には最新の地震災害をテーマにするなど、新しく正しい知識の普及・啓発に努めている。 ○最新の南海トラフ地震の被害想定を反映したデータ・展示物の更新等には多額の費用がかかるため、設備の維持に努め、経費削減を図っている。			
	現状の課題	○供用開始から15年が経過し、設備・備品の一部に経年劣化が見られるほか、令和6年能登半島地震を契機とした地震・津波対策への関心の高まりを踏まえ、新たな視点での防災思想の普及・啓発に取り組む必要がある。			
	改善方策	○展示物等の更新等を計画的に行い、正しい知識の普及・啓発及び利用者の増加に努めるほか、今後更なる増加が見込まれる修繕経費を念頭に管理の効率化を進める必要がある。			
数値目標 (利用者数)	年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
	目標値(人)	10,000	10,000	10,000	10,000
労働条件・環境	■適 □否	否の場合の内容と対応			

指定管理施設名		セミナーパーク				
指定管理者名		公益財団法人山口県ひとつくり財団				
指 定 期 間		令和3年4月1日 ～ 令和8年3月31日				
管理業務の実施状況	指定管理業務	施設目的推進業務		施設の運営業務	施設及び設備の維持管理業務	
	業 務 内 容	○セミナーパークの施設を利用して、設置目的である県民の学習活動及び交流を促進する事業を実施すること。		○セミナーパーク施設の使用許可、利用促進等施設の運営に関する業務を実施すること。	○セミナーパークにおける施設及び設備の維持管理に関する業務を実施すること。	
	実 施 状 況	○新型コロナウイルス感染症が5類に移行したことにより、全ての事業を予定どおり実施した。 ○全ての事業において、事後アンケート及びチームによる振り返り並びに次年度に向けて改善についての協議を実施している。		○施設の使用許可業務は適切に行われた。 ○アンケート等により利用者のニーズを把握し、取組に反映した。	○利用者の安全を第一に、日常的な点検と所要の修繕、新型コロナウイルス感染対策等を実施し、県民利用に支障が生じないよう適切な維持管理を実施している。	
	未履行の有無	無		無	無	
施設利用実績		利用者数(人)	令和4年度	130,727		
			令和5年度	143,347		
			増 減	12,620		
		実績の分析	○新型コロナウイルス感染症が5類に移行したこと等により、利用者数は増加			
利用促進に向けた新たな取組		○施設のイメージアップと利便性向上のため、ホームページによる情報発信を強化 ○ホームページからの問い合わせに迅速かつ的確に回答 ○新型コロナウイルス感染症への基本的な感染防止対策の継続による安全・安心な環境づくり ○食堂事業者による夕食時酒類提供の再開				
収 支 結 果		科 目	予算額(円)	決算額(円)	差 異(円)	
		収 入	426,844,000	379,160,587	△47,683,413	
		支 出	426,844,000	378,781,940	△48,062,060	
		差引(収入-支出)	0	378,647	378,647	
		○新型コロナウイルス感染症の5類移行により施設利用が回復し、利用料収入については対前年度比で増加しており、収支についてもプラスとなった。				
サービスの質の評価 (利用者満足度調査結果等)		○令和5年10月9日～10月15日の期間で利用者満足度調査を実施した。 ○満足・ほぼ満足の回答が93.6%であり、利用者から高い満足度評価を得ている。				
課題と改善方策等	前年度までの改善方策に対する取組状況	○事業開催の周知について、ホームページへの掲載やメールマガジンによる配信、戸別配布型フリーペーパー等、様々な媒体を活用し積極的に行った。 ○アンケートにより講座受講者の意見やニーズを把握し、講座内容や運営について一層の充実を図った。 ○各事業において、新たな時代の人づくり推進方針を考慮した次年度事業の方向性を検討している。 ○老朽化した設備の更新を施設利用者への影響等を踏まえながら計画的に実施している。				
	現状の課題	○施設目的推進業務参加者数(特に若者)の減少 ○新たな時代の人づくり推進方針に沿った事業企画・運営 ○施設利用者数の減少 ○老朽化設備の更新				
	改善方策	○若者の育成においては、発達段階に応じた取組を推進するとともに、事業のサポーターとして、大学生等の参画を得て事業の充実を図る。 ○各事業の充実を図るため、新たな時代の人づくり推進方針及びアンケート等を考慮するとともに、協議を行いながら改善に努める。 ○利用者アンケート等による改善点の把握に努め、リピーターの確保を図るとともに、ホームページ等の活用によるPRの強化により、施設利用者数の増加を図る。 ○日常的な点検等により、常に各種設備の状況を把握した上で、緊急性等を重視した計画的な設備更新を図る。				
数 値 目 標 (利用者数)		年 度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
		目標値(人)	243,000	243,000	—	—
労働条件・環境		■適 □否	否の場合の内容と対応			

指定管理施設名		やまぐち県民活動支援センター				
指定管理者名		特定非営利活動法人やまぐち県民ネット21				
指定期間		令和3年4月1日～令和8年3月31日				
管理業務の実施状況	指定管理業務	施設設備の維持管理等業務		県民活動推進に関する業務		
	業務内容	○施設及び設備の維持管理に関する業務 ○開館日及び開館時間の変更に関する業務 ○施設の利用の許可に関する業務		○県民活動に関する情報及び資料の収集並びに提供に関する業務 ○県民活動に関する相談及び助言に関する業務 ○県民活動に関する研修に関する業務 ○県民活動団体等の交流の機会の提供に関する業務 ○県民活動に関する調査及び研究に関する業務 ○その他、県民活動を支援するために必要な業務		
	実施状況	○印刷機、丁合機、紙折機、裁断機などの施設設備品の維持管理を行ったほか、交流コーナー内に大型モニターを新設し、来所者の利便性向上を図った。		○メールマガジン発行、情報サイトの管理運営、組織基盤の強化を図る研修などを随時行ったほか、各センターや県民活動関連機関等と連携協働して各種支援事業を実施した。		
	未履行の有無	無		無		
施設利用実績		利用者数(人)	令和4年度	9,034		
			令和5年度	9,389		
		増減	355			
実績の分析		○情報コーナー、交流コーナー、相談コーナー、ワークコーナーともに前年度比10%以上の利用者増となっており、全体的に利用件数が増加した。				
利用促進に向けた新たな取組		○コロナ禍以降、Zoomをはじめとした各種ITツールの活用に対する団体側のニーズが高まっているが、各団体が自前のPC等でツールの活用を試みてもうまくいかない場合が多いため、県センター職員がPC操作について団体から相談を受けて助言を行うサービスを始めたところ、複数の団体から断続的に相談が寄せられ、その都度対応した。				
収支結果		科目	予算額(円)	決算額(円)	差異(円)	
		収入	22,459,000	22,458,040	△960	
		支出	22,459,000	22,427,413	△31,587	
		差引(収入-支出)	0	30,627	30,627	
		○予算執行にあたっては、センター内に常設している印刷機や複合機などのリース物件について、当年度も全て再リースとし、貸借料の金額を抑えるなど、節減努力を行った結果、若干の余剰発生となった。				
サービスの質の評価 (利用者満足度調査結果等)		○主催した9種の研修後、参加者に対し研修内容の満足度についてアンケートを行ったところ、回答の全平均値は90.9点を示しており、満足度の高い研修が実施できた。 ○年度末には施設利用者を対象にアンケートを実施し、各サービスを利用したことがあるという回答のうち、「よい・大変よい」が81%（「普通」は18%）で、概ね好評を得た。				
課題と改善方策等	前年度までの改善方策に対する取組状況	○山口県に180以上存在する「子ども食堂・地域食堂」やフードバンク拠点などが今後も継続的に運営され、各地で機能し続けるためにはどうすればよいか、また、県及び市町の支援センターがどのように支援できるのか、子ども食堂やフードバンクの関係者と、適宜意見・情報交換を行った。 ○他県において取り組まれている支援事例を情報収集し、今後に向けた支援のあり方について模索した。				
	現状の課題	○あいかさねっとやスーパーネットのセキュリティ対策及び機能の維持が課題であり、両サイト運営で用いているサーバーを移行してから6年が経過しているため、セキュリティの観点からシステム更新を図る必要がある。				
	改善方策	○現行システムで問題が発生しないよう、適宜対応にあたるとともに、システム移行については担当課との連携を重ねて、両サイトの利活用に支障が生じない体制構築を図る。				
数値目標 (利用者数)		年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
		目標値(人)	9,400	9,500	—	—
労働条件・環境		■適 □否	否の場合の内容と対応			

指定管理施設名		豊田湖ビジターセンター			
指定管理者名		下関市			
指 定 期 間		令和3年4月1日 ～ 令和8年3月31日			
管理業務の実施状況	指定管理業務	運営業務		維持管理業務	
	業 務 内 容	<ul style="list-style-type: none"> ○自然に関する資料等の収集及び展示に関すること ○自然の観察の指導に関すること ○自然保護思想の高揚のために必要な業務に関すること ○開館日に開館し、又は臨時に閉館すること ○開館時間を延長し、又は短縮すること ○自然公園施設の利用を拒むこと 		<ul style="list-style-type: none"> ○自然公園施設の施設及び設備の維持管理に関すること 	
	実 施 状 況	<ul style="list-style-type: none"> ○四季の特色ある草木の収集展示や周辺自然の写真展示を実施 ○大自然の中での癒しの場づくりや、自然とのふれあいによる自然保護思想の普及啓発の取組、自然体験型イベントの実施 		<ul style="list-style-type: none"> ○施設内警備 ○浄化槽保守点検 ○施設清掃・景観管理 ○設備・備品保守 など 	
	未履行の有無	無		無	
施設利用実績	利用者数(人)	令和4年度	24,542		
		令和5年度	23,677		
		増 減	△865		
実績の分析	○線状降水帯発生などによる豪雨や熱中症アラート多発等の不安定な気候、豊田湖の水位減によるシーズン中の50日間の栈橋閉鎖により、利用者数が減となった。				
利用促進に向けた新たな取組	○特記事項なし				
収 支 結 果	科 目	予算額(円)	決算額(円)	差 異(円)	
	収 入	45,000,000	39,477,019	△5,522,981	
	支 出	45,000,000	41,384,448	△3,615,552	
	差引(収入-支出)	0	△1,907,429	△1,907,429	
	○キャンプブームが落ち着いたこともあり、関連施設利用料収入が若干減少した。 ○シーズン中の50日間の栈橋閉鎖により、施設利用料収入(栈橋利用料、ボート貸出料)、自主事業収入(栈橋売店、釣具用品販売)が大幅に減少した。				
サービスの質の評価 (利用者満足度調査結果等)	○利用者への聞き取りやアンケートの結果は概ね良好であるが、昆虫等の出没への不満があった。				
課題と改善方策等	前年度までの改善方策に対する取組状況	○施設老朽化に伴う修繕箇所の緊急度の判断について、定期的に施設を巡回し修繕箇所の把握に努め、緊急度や優先順位を判定した。			
	現状の課題	○施設の維持管理費の増加			
	改善方策	○補修・修繕の緊急度を判断し、包括協定に基づき、予算の範囲内で優先順位をつけ、計画的に修繕を実施する。			
数 値 目 標 (利用者数)	年 度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
	目標値(人)	20,000	20,000	20,000	20,000
労働条件・環境	■適 □否	否の場合の内容と対応			

指定管理施設名	須佐湾ビジターセンター				
指定管理者名	萩市				
指 定 期 間	令和3年4月1日 ～ 令和8年3月31日				
管理業務の実施状況	指定管理業務	運営業務			維持管理業務
	業務内容	○自然に関する資料等の収集及び展示に関すること ○自然の観察の指導に関すること ○自然保護思想の高揚のために必要な業務に関すること ○開館日に開館し、又は臨時に閉館すること ○開館時間を延長し、又は短縮すること ○自然公園施設の利用を拒むこと			○自然公園施設の施設及び設備の維持管理に関すること
	実施状況	○自然観察などを実施 ・海浜清掃 ・海開き海浜清掃			○浄化槽保守点検業務、施設の修繕などを実施
	未履行の有無	無			無
施設利用実績	利用者数(人)	令和4年度	5,173		
		令和5年度	4,657		
		増 減	△516		
	実績の分析	○近隣地域にキャンプ施設が増えたことや、令和5年5月より新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置づけが5類に移行し、従来の観光施設の利用が増えたことにより、利用者数が減少した。			
利用促進に向けた新たな取組	○宿泊後のお客様へのお礼メールにて改善点等を返信してもらうこととした。 ○券売機の導入や脱衣所へ小型ファンヒーターを設置した。 ○ホームページ、インターネット予約をリニューアルした。				
収 支 結 果	科 目	予算額(円)	決算額(円)	差 異(円)	
	収 入	16,100,000	12,496,396	△3,603,604	
	支 出	14,500,000	12,084,155	△2,415,845	
	差引(収入-支出)	1,600,000	412,241	△1,187,759	
	○新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置づけが5類へ移行したことに伴い、他施設に利用者が移行した等が推測され、利用者数及び収入の減少となったが、支出についても運営努力等により減少しており、黒字を維持している。				
サービスの質の評価 (利用者満足度調査結果等)	○利用者への聞き取りやアンケート調査を実施しており、結果は良好である。				
課題と改善方策等	前年度までの改善方策に対する取組状況	○新たな利用者の誘致等については、ホームページや利用者のSNSを活用した。 ○連泊を予約しやすくするため、通常の宿泊と連泊の予約可能日を変更した。 ○労働力不足については、業務改善により人と時間を効率化した。			
	現状の課題	○新規利用者の定着 ○サービスの形式化 ○施設の老朽化			
	改善方策	○新規利用者の定着については、ホームページやSNS等により情報発信を行う。 ○サービスの形式化については、魅力的な新しいサービスの提案を行う。 ○施設の老朽化については、計画的な修繕に取り組んでいく。			
数 値 目 標 (利用者数)	年 度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
	目標値(人)	6,000	6,000	6,000	6,000
労働条件・環境	■適 □否	否の場合の内容と対応			

指定管理施設名	角島ビジターセンター				
指定管理者名	下関市				
指 定 期 間	令和3年4月1日 ～ 令和8年3月31日				
管理業務の実施状況	指定管理業務	運営業務			維持管理業務
	業 務 内 容	○自然に関する資料等の収集及び展示に関すること ○自然の観察の指導に関すること ○自然保護思想の高揚のために必要な業務に関すること ○開館日に開館し、又は臨時に閉館すること ○開館時間を延長し、又は短縮すること ○自然公園施設の利用を拒むこと			○自然公園施設の施設及び設備の維持管理に関すること
	実 施 状 況	○自然観察会の実施（5回、計133名参加）（豊北町自然観察指導員会に委託） ○自然観察会の様子を随時展示し来館を促進 ○来館者に自然館内展示物についての解説及び自然保護の呼びかけを実施			○消防用設備保守点検 ○夜間機械警備 ○自家用電気工作物保安管理 など
	未履行の有無	無			無
施設利用実績	利用者数(人)	令和4年度			3,685
		令和5年度			3,841
		増 減			156
	実績の分析	○令和5年5月から新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置づけが5類となったことから、利用者数も僅かであるが回復し始めた。			
利用促進に向けた新たな取組	○自然に関する知識を豊富に持つ者を職員として雇用し、入館者に対する展示物についての解説を強化した。				
収 支 結 果	科 目	予算額(円)	決算額(円)	差異(円)	
	収 入	4,873,200	5,509,960	636,760	
	支 出	4,873,200	5,509,960	636,760	
	差引(収入-支出)	0	0	0	
	○来館者は微増となったものの、入館協力金は若干減収となった(500,282円→413,442円)。 ○人件費(会計年度任用職員)の増加及び光熱水費の高騰により、大幅な支出減とはならなかった。				
サービスの質の評価 (利用者満足度調査結果等)	○入館者へのアンケートでは、職員が行っている無料解説が好評を得ている。 ○自然観察会では、聞き取り調査を実施し、「また参加したい」など満足度の高い意見が多数を占めた。				
課題と改善方策等	前年度までの改善方策に対する取組状況	○入館者誘致対策として下記の事項を実施し、来館者増に努めた。 ・来館者への無料解説の実施や角島の貝殻の無料配布などによる満足度の向上 ・ホームページや様々な媒体を利用した情報発信 ・自然観察会終了後の写真展の開催 ○施設老朽化に伴う修繕の実施については、計画的な修繕に努めた。			
	現状の課題	○入館者誘致対策 ○施設老朽化に伴う修繕対策			
	改善方策	○入館者誘致対策は、現状の取組を引き続き実施する。 ○施設老朽化に伴う修繕対策は、引き続き優先順位を検討しながら計画的に取り組む。			
数 値 目 標 (利用者数)	年 度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
	目標値(人)	8,000	8,000	8,000	8,000
労働条件・環境	■適 □否	否の場合の内容と対応			

指定管理施設名	秋吉台ビジターセンター				
指定管理者名	美祢市				
指 定 期 間	令和3年4月1日 ～ 令和8年3月31日				
管理業務の実施状況	指定管理業務	運營業務			維持管理業務
	業 務 内 容	<ul style="list-style-type: none"> ○自然に関する資料等の収集及び展示に関すること ○自然の観察の指導に関すること ○自然保護思想の高揚のために必要な業務に関すること ○開館日に開館し、又は臨時に閉館すること ○開館時間を延長し、又は短縮すること ○自然公園施設の利用を拒むこと 			<ul style="list-style-type: none"> ○自然公園施設の施設及び設備の維持管理に関すること
	実 施 状 況	<ul style="list-style-type: none"> ○来館者に対する、模型等の展示物を活用した自然解説 ○自然環境学習会の開催（15回、418名） ○動物・植物等の調査研究及び資料収集 ○秋吉台エコクラブの活動との連携 ○エコ通信の発行 			<ul style="list-style-type: none"> ○夜間機械警備 ○浄化槽保守点検業務 ○消防設備保守点検 ○自家用電気工作物保守管理 ○館内清掃 ○施設・設備・備品保守点検
	未履行の有無	無			無
施設利用実績	利用者数(人)	令和4年度	7,395		
		令和5年度	7,497		
		増 減	102		
	実績の分析	○令和5年5月から新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置づけが5類に移行したことにより、利用者数は増加傾向にある。			
利用促進に向けた新たな取組	○関係施設との連携を図り、積極的に各種活動に取り組んだ。				
収 支 結 果	科 目	予算額(円)	決算額(円)	差 異(円)	
	収 入	5,980,000	5,292,434	△687,566	
	支 出	5,980,000	5,292,434	△687,566	
	差引(収入－支出)	0	0	0	
	○施設及び設備の老朽化により維持管理費等の支出が年々増加している。				
サービスの質の評価 (利用者満足度調査結果等)	<ul style="list-style-type: none"> ○行事等でアンケート調査を実施しており、概ね良好な感想をいただいている。 ○アンケート結果は講師に提供し、次の行事等に反映させている。 				
課題と改善方策等	前年度までの改善方策に対する取組状況	○展示物、施設及び設備の保守について、可能な範囲で修繕等の対応を実施した。			
	現状の課題	<ul style="list-style-type: none"> ○シアタールームでの上映ができない ○展示物、施設及び設備の老朽化（レクチャールームの照明が点灯できない） ○業務の効率化 			
	改善方策	<ul style="list-style-type: none"> ○シアタールームの代わりにレクチャールームで映像を放映するなどの対応をしている。 ○展示物や設備等の老朽化については、応急的な処置をしつつ、抜本的な改修を検討する。 ○業務の効率化については、連絡調整を密にし、作業分化等により業務の効率化を図る。 			
数 値 目 標 (利用者数)	年 度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
	目標値(人)	10,000	10,000	10,000	10,000
労働条件・環境	■適 □否	否の場合の内容と対応			

指定管理施設名	きらら浜自然観察公園				
指定管理者名	特定非営利活動法人野鳥やまぐち				
指 定 期 間	令和3年4月1日 ～ 令和8年3月31日				
管理業務の実施状況	指定管理業務	運營業務			維持管理業務
	業 務 内 容	○野生動植物との「ふれあいの機会の提供」、「観察の指導」及び「資料等の収集・展示」に関すること ○自然保護についての県民の理解を深めるために必要な業務に関すること ○開館日に開館し、又は臨時に閉館すること ○開館時間を延長し、又は短縮すること ○公益を害するおそれのあるとき等は、利用を拒むこと			○公園の施設及び設備の維持管理に関すること
	実 施 状 況	○干潟ふれあいゾーン・ミニ水族館エリアの維持 ○バードウォッチング入門、子どもレンジャークラブ、水生生物・植物・昆虫等のきらら浜の自然を活かした観察会、夜の公園探検等の行事の開催 ○土日祝日の工作教室、紙芝居、ビデオ上映、こどもあそびの広場、レンジャーの自然に関するクイズ等の開催 ○渡り鳥飛来調査、干潟・園内生物調査(底生生物、昆虫等)、淡水魚等生物展示 ○春まつり、ふれあい祭りの開催 ○ホームページ、フェイスブック、YouTube、Instagram、テレビ・ラジオ出演による情報発信、公園だよりの発行等 ○ボランティア育成、指導者の派遣、調査事業の実施 ○夏休み期間及び正月の臨時開園			○夜間機械警備 ○保守点検(浄化槽、消防用設備、自家用電気工作物、上水道・空調設備、水中ポンプ設備、海水導入水門) ○その他の施設・設備・備品の保守点検・清掃・修繕 ○淡水池等の水質調査 ○ヨシ焼きによるヨシ原の保全 ○外来生物駆除 ○園内巡視
	未履行の有無	無			無
施設利用実績	利用者数(人)	令和4年度	16,024		
		令和5年度	14,373		
		増 減	△1,651		
実績の分析	○他の施設や催し等において新型コロナウイルス感染症に伴う規制が緩和されたことにより、利用者数が逡減しているが、イベントやメニューの見直しにより、第3期の年間利用者数と比較すると第4期は順調に推移している。				
利用促進に向けた新たな取組	○「ミニ水族館」展示物の更新頻度を高め、リピーターに対応した。 ○行事の新設(公園 de などとき「バエロ!自然観察公園!」等)や、観察設備の修繕や交換による改善を実施した。				
収 支 結 果	科 目	予算額(円)	決算額(円)	差 異(円)	
	収 入	51,036,000	52,376,109	1,340,109	
	支 出	51,036,000	52,131,265	1,095,265	
	差引(収入-支出)	0	244,844	244,844	
	○施設老朽化に伴う修繕箇所の増加や光熱費の高騰があるが、節電等費用削減や外部資金確保に努めた。				
サービスの質の評価(利用者満足度調査結果等)	○利用者への聴取やアンケート結果において、概ね満足との回答を得た。 ○新規イベントや生き物と触れ合えるイベント等の増加について提言があった。				
課題と改善方策等	前年度までの改善方策に対する取組状況	○設備老朽化に対して月例点検を実施し、来園者の安全確保を目的に改善箇所を見つけ出し、補修を実施した。 ○特定外来生物等の駆除に努めた。			
	現状の課題	○リピーターの確保 ○大人向けメニューの充実化 ○施設の老朽化に伴う修繕費等の増加			
	改善方策	○幅広い年齢層向けの行事を開催して、様々な媒体でPRする。 ○補修箇所の早期発見や早期補修により、修繕費を抑える。			
数 値 目 標 (利用者数)	年 度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
	目標値(人)	20,000	20,000	20,000	20,000
労働条件・環境	■適 □否	否の場合の内容と対応			

指定管理施設名		健康づくりセンター				
指定管理者名		公益財団法人山口県健康福祉財団				
指 定 期 間		令和3年4月1日 ～ 令和8年3月31日				
管理業務の実施状況	指定管理業務	貸館業務	施設維持管理業務	その他業務		
	業 務 内 容	○多目的ホール・研修室等の利用申請、許可及び管理等に関すること	○設備の保守点検業務、屋内・屋外清掃、植栽維持管理に関すること	○窓口業務、センターホール展示スペースの運営、広告・宣伝、施設予約サービス運用等		
	実 施 状 況	○協定内容を良好に履行している。	○協定内容を良好に履行している。	○協定内容を良好に履行している。		
	未履行の有無	無	無	無		
施設利用実績		利用者数(人)	令和4年度	81,960		
			令和5年度	74,720		
			増 減	△7,240		
		実績の分析	○新型コロナウイルスのワクチン集団接種会場としての利用が終了したことから、利用件数が前年度比13.6%減少となり、利用者数も減少した。			
利用促進に向けた新たな取組		○快適な設備環境を提供するべく、設備の保守点検・修繕と予防保全を実施 ○施設内消毒などの衛生管理を徹底 ○Wi-Fi設備を活用したリモート会議等を招致したりするとともに、山口観光コンベンション協会に情報提供を行うことにより大きなイベントを招致				
収 支 結 果		科 目	予算額(円)	決算額(円)	差異(円)	
		収 入	52,134,000	52,154,779	20,779	
		支 出	49,336,000	48,866,737	△469,263	
		差引(収入-支出)	2,798,000	3,288,042	490,042	
		○予算額及び決算額は、損益ベースで計上している。 ○支出減少要因は、主にエネルギー使用量の節減による光熱費の減額によるもの。				
サービスの質の評価 (利用者満足度調査結果等)		○施設利用者アンケート調査を実施(令和6年1月～3月)し、満足度における「良い」評価は、「施設設備」、「駐車場」の設問で70%台、「申請手続き」、「利用料金」、「スタッフの対応」で80%台の評価を得た。 ○大規模な雨漏りによる施設の天井や壁を覆う雨漏り跡とカビ臭の改善を求める声が、多数寄せられた。				
課題と改善方策等	前年度までの改善方策に対する取組状況	○計画的な施設設備の修繕 →老朽化等による故障・破損を解消するため、総合保健会館の旗ポール復旧工事、前庭路面タイル補修工事、第1研修室の電動ホワイトボード復旧工事、多目的ホール舞台裏通路の補修工事、小型電気温水器の更新工事を実施。 →架線の断線防止のため、総合保健会館敷地内高木76本について、剪定・伐採等業務を実施。 ○利用の促進 →前年度と同様に、大会議室を中心に空室情報を積極的に提供し、利用形態に応じて施設利用(リモート会議等)を提案するとともに、安全な施設利用ができるよう利用者との調整を図るなど、利用者の立場に立った方策を行っている。				
	現状の課題	○リモート会議の利用増による使用形態の変化(大→小会議室)に伴う収入の落ち込み ○エネルギー価格の高騰に起因する光熱費の経費増大 ○施設・設備の老朽化による修繕箇所増加				
	改善方策	○健康づくりの中核施設としての強みを生かして、関係団体等に周知を行い、大規模な人材研修や講習会等を積極的に受け入れる。 ○施設所管課との連携を強化し、経営状況について逐次報告・相談する。 ○施設・設備の状況等を踏まえた修繕計画(優先順位)の策定と予防保全を継続的に実施する。				
数 値 目 標 (利用者数)		年 度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
		目標値(人)	103,000	103,000	—	—
労働条件・環境		■適 □否	否の場合の内容と対応			

指定管理施設名		聴覚障害者情報センター				
指定管理者名		社会福祉法人山口県聴覚障害者福祉協会				
指定期間		令和3年4月1日～令和8年3月31日				
管理業務の実施状況	指定管理業務	施設管理・運営業務	聴覚障害者用の録画物制作業務	相談支援業務		
	業務内容	○センター施設・設備の管理運営	○聴覚障害者用の録画物の制作及び利用	○聴覚障害者等に関する相談		
	実施状況	○施設の利用促進 ○各種点検・保守	○スタジオ・試写室等の活用(延べ利用者数140人)	○相談支援活動の充実(2,552件)		
	未履行の有無	無	無	無		
施設利用実績		利用者数(人)	令和4年度	4,396		
			令和5年度	4,915		
			増減	519		
		実績の分析	○新型コロナウイルス感染症の位置づけが令和5年5月8日に「2類相当」から「5類」へ移行(緩和)したことに伴う利用団体の利用増等の影響等が考えられる。			
利用促進に向けた新たな取組		○聴覚障害者関係団体以外の民間団体への利用促進 ○山口県聴覚障害者福祉協会後援会が主催する「情報センター祭り」等の地域住民との交流 ○若年層手話通訳者養成モデル事業を踏まえた県内大学の手話サークルとの連携強化 ○民生委員協議会、企業等の施設見学や体験学習の充実化				
収支結果		科目	予算額(円)	決算額(円)	差異(円)	
		収入	24,559,000	24,559,000	0	
		支出	24,559,000	24,559,000	0	
		差引(収入-支出)	0	0	0	
		○効率的な管理運営と予算管理の徹底により、経費の節減等に努めた。				
サービスの質の評価(利用者満足度調査結果等)		○利用者(当事者、関係団体、講座受講生等)からセンター及びセンター事業についての意見をいただいております、概ね良好な評価である。 ○センターやホームページに「ご意見箱」を設置し、利用者ニーズの把握に努めている。				
課題と改善方策等	前年度までの改善方策に対する取組状況	○県政広報番組への手話・字幕挿入による映像ライブラリー作品の充実化 ○意思疎通支援者養成研修等の受講者増に向けた、市町行政担当者や関係団体等との連携強化 ○関係団体、教育機関、自治体等への積極的な利用促進や、施設体験学習への利用促進 ○施設設備等の老朽化に伴う安全・快適な施設利用の取組				
	現状の課題	○映像ライブラリー利用の低迷 ○意思疎通支援者養成研修等の受講者の減少 ○利用者向け施設内無線LANの環境改善 ○建設から20年以上経過した施設・設備の計画的な更新及び樹木周辺の雑草対策(除草)				
	改善方策	○県市政広報番組への手話・字幕挿入による映像ライブラリー作品の充実化 ○意思疎通支援者養成研修等の受講者増に向けた市町行政担当者や関係団体等との連携強化 ○利用者向け施設内無線LANの環境改善に係る県への申し入れ ○施設設備等の老朽化に伴う安全・快適な施設利用の取組及び樹木周辺の雑草対策(除草)				
数値目標(利用者数)		年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
		目標値(人)	6,000	6,000	6,000	6,000
労働条件・環境		■適 □否	否の場合の内容と対応			

指定管理施設名		身体障害者福祉センター				
指定管理者名		公益社団法人山口県障害者スポーツ協会				
指定期間		平成31年4月1日～令和6年3月31日				
管理業務の実施状況	指定管理業務	運営業務		維持管理業務		
	業務内容	○運営業務（貸館業務等）		○施設及び設備の維持管理		
	実施状況	○身体障害者の機能訓練、社会交流、スポーツ及びレクリエーション活動の促進に向けて、施設の利用承認手続を適切に実施した。		○利用者の安心・安全を第一に、日常点検や計画的な更新により、適正な維持管理を実施した。		
	未履行の有無	無		無		
施設利用実績		利用者数（人）	令和4年度	8,707		
			令和5年度	10,600		
			増減	1,893		
		実績の分析	○新型コロナウイルス感染症の5類移行により障害者団体の活動が徐々に再開されたことを主因として、利用者数は大きく増加した。			
利用促進に向けた新たな取組		○障害者団体へ、協会が主催するスポーツ大会、スポーツ教室等の参加者拡大を要請 ○前年度に整備したスポーツ用具の無料貸出 ○利用者意見も踏まえた安心・安全で快適な施設環境の整備				
収支結果		科目	予算額（円）	決算額（円）	差異（円）	
		収入	15,086,000	15,082,860	△3,140	
		支出	15,086,000	14,971,588	△114,412	
		差引(収入－支出)	0	111,272	111,272	
		○光熱水費等、維持管理経費の高騰はあるものの、予算の効率的な執行と経費節減に努めたことで、収支はプラスとなった。				
サービスの質の評価 (利用者満足度調査結果等)		○令和5年8月18日から9月30日の期間で利用者アンケート調査を実施し、利用者ニーズの把握に努めた。 ○概ね9割の利用者から「大変満足」・「満足」との回答があり、施設利用に関して高い評価を得ている。				
課題と改善方策等	前年度までの改善方策に対する取組状況	○障害者スポーツ大会やパラスポーツ指導員養成講習会等のPR強化により参加者拡大に努めたほか、新規取組として障害者体操教室を開催するなどにより、新規利用者の開拓とリピーターの定着を推進 ○障害者スポーツ競技団体代表者会議等でリーフレットを配布し、利用促進を要請 ○夏季のプール開放にあたり、ホームページでの周知と通年の利用団体への利用要請を実施 ○利用者意見を踏まえて、休憩室の空調設備やレクチャールームの引戸等を改修				
	現状の課題	○研修室、会議室の利用者数の低迷 ○開所後50年を経過した施設・設備の適切な維持管理と計画的な修繕				
	改善方策	○施設の利便性向上のため、休館日（毎週水曜日）を見直す。 ○Wi-Fiを活用した会議、研修会の開催や、音楽・料理教室、レクリエーション活動など、多種多様な利活用が図られるよう、関係福祉団体へのPRに努める。 ○県所管課とも協議の上、緊急性や利便性を踏まえた修繕計画を策定し、施設の長寿命化も踏まえて計画的な更新に努める。				
数値目標 (利用者数)		年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
		目標値(人)	15,000	15,000	15,000	15,000
労働条件・環境		■適 □否	否の場合の内容と対応			

指定管理施設名		みほり学園	
指定管理者名		社会福祉法人山口県社会福祉事業団	
指定期間		令和3年4月1日～令和8年3月31日	
管理業務の実施状況	指定管理業務	管理業務	施設・設備の管理業務
	業務内容	<ul style="list-style-type: none"> ○心理治療や生活指導等を要する措置児童の保護に関すること ○児童の心理治療、生活指導及び学習指導に関すること ○児童の保護者に対する指導に関すること ○児童の入退所に関すること ○児童の記録に関すること ○地域公益的活動に関すること 	○施設及び設備の維持管理に関すること
	実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ○児童相談所と連携し、不登校を主訴とする児童に加え、地域・学校・家庭での適応が困難となった被虐待児や軽度発達障害児（学習障害や注意欠陥多動性障害等）、入院加療後地域へ帰ることを前提とした児童等を積極的に受け入れた。 ○令和5年度入所状況は、不登校児4.2%、被虐待児45.8%、軽度発達障害児79.1%であった。 ○新入所児がスムーズに学園生活に適応できるよう、入所前カンファレンスや、必要に応じて見学を実施するとともに、入所後には、個々に合わせてルールの確認をするなどの対応を継続して実施した。 ○日々の生活をベースに、基本的な生活習慣の定着や、集団活動を通じて協調性・自主性の養成に努め、中でも「認知機能強化トレーニング」、「認知作業トレーニング」等の継続的な取組は、基礎学力や対人スキルの向上が図られ、効果があった。 ○施設内暴力やいじめ防止の取組として、学校と連携して定期的に聴き取り調査を実施し、安心・安全な生活の確保に努めるとともに、事案に応じて関係機関との連携に努めた。 ○リービングケアの一環で、中学3年生を対象に買い物支援や「マナー講座」を実施するとともに、保護者と家庭的な関わりが難しい児童を対象に家庭的な雰囲気の中での外出を実施した。 ○月2回の保護者会を通じて児童の変容を伝えるとともに、面接相談を実施し、家族関係の改善を図った。 ○令和5年度は9名が退所し、そのうち中学3年生7名の退所児全員が高等学校に進学した。 ○「生活指導」、「心理療法」、「学校教育」のそれぞれの立場からアプローチを行う「総合環境療法」の充実に努め、嘱託医も参加するケース会議においては、支援目標の見直しや情報の共有を図った。 ○各種業務日誌や面接記録については、児童の様子や指導内容を具体的に記録した。 ○「退所児アフターフォロー」、「外来相談」等を通して、地域で悩みを抱える児童やその保護者から相談を受け、必要に応じて面接を実施するなどの支援に繋げた。 ○毎年1名を目標に家族再統合に取り組み、令和5年度については2名と、目標人数を超えて達成することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○大浴室タイル工事（令和5年8月） ○铸铁製温水NO.1ボイラー取替工事（令和5年10月）
未履行の有無	無	無	
施設利用実績	利用者数(人)	令和4年度	7,966
		令和5年度	7,554
		増減	△412
実績の分析	<ul style="list-style-type: none"> ○令和5年度は、初日に籍児童数19名でスタートし、入所8名に対し、退所は9名であった。 ○男子児童の相談の方が多く、発達特性のある児童の割合が増えており、対応も多様化・個別化してきている。 		

<p>利用促進に向けた新たな取組</p>	<p>○発達特性や基礎学力に有効とされる「認知作業トレーニング」や「認知機能強化トレーニング」を継続実施し、中間評価を入れて検証を行うとともに、特性や問題行動に応じた振り返りプログラムを検証・実施した。</p> <p>○リービングケアの一環として実施している「マナー教室」を継続するとともに、保護者との家庭的な関わりが難しい児童に対しては、家庭的な関わり方に関する個別支援の見直しを行っている。</p>			
<p>収支結果</p>	<p>科目</p>	<p>予算額 (円)</p>	<p>決算額 (円)</p>	<p>差異 (円)</p>
	<p>収入</p>	<p>191,366,000</p>	<p>191,726,922</p>	<p>360,922</p>
	<p>支出</p>	<p>191,366,000</p>	<p>191,726,922</p>	<p>360,922</p>
	<p>差引 (収入－支出)</p>	<p>0</p>	<p>0</p>	<p>0</p>
	<p>○収支については、長期入所型の施設に比して不安定になりがちだが、入所児童が治療に専念できるような、安心して安全な生活を送ることのできる体制・環境づくりに努めるとともに、諸経費を節減する等、効率的な事業運営に努めた。</p>			
<p>サービスの質の評価 (利用者満足度調査結果等)</p>	<p>○毎年、保護者に対し満足度調査を実施しているが、学園への大きな不満は無く、好意的な意見がみられるなど、評価は概ね良好である。</p> <p>○毎年、法人実施要領に基づいて自己評価、利用者満足度調査を実施しており、調査結果等を踏まえてサービスに係るマニュアル等の見直しを行い、周知を図った。</p>			
<p>課題と改善方策等</p>	<p>前年度までの改善方策に対する取組状況</p>	<p>○精神科医の助言に基づき、ロールプレイやソーシャルスキルトレーニングによる指導・援助を継続実施した。</p> <p>○「認知作業トレーニング」、「認知機能強化トレーニング」については、継続実施することにより効果を得ている。</p> <p>○新入所児については、児童相談所と事前のカンファレンスを行うなどして情報共有を図り、入所時には個別対応の期間を設ける等、早く施設に慣れ、安心して生活を送ることができるよう努めるとともに、児童の共通理解を深めるため、各担当者で情報の共有に努めた。</p> <p>○性的な暴力を含む施設内虐待を防止し、安全・安心な生活、学習環境を保証するため、学校と合同で児童からの個別の聴き取り調査(安心安全チェックタイム)を3回実施するとともに、学園で1回、学校の教育相談で1回の聴き取りも実施した。</p> <p>○虐待防止の推進を図るため、組織的な体制整備を行うとともに、研修や委員会を開催し、マニュアルの見直しと周知を図った。</p> <p>○問題行動に対して、効果的な振り返りができるよう、取組を検証・実施した。</p> <p>○退所後、措置変更先の施設や家庭で不適応を起こしている児童と家族に対して、相談・面接等を実施し、効果も得ている。</p> <p>○中学3年生や退所予定児童、一時帰省できない児童を対象に、リービングケアを継続実施した(公共交通機関の利用方法、買い物指導、公共施設の利用等、社会生活に必要な支援)。</p> <p>○中学生を対象に「マナー教室」を計画的に実施し、マナーや社会性を学ぶ機会とした。</p> <p>○保護者との家庭的な関わりが難しい児童に対して、家庭的な関わりを持つ個別支援の見直しを行い、児童の希望を取り入れた支援を行った。</p> <p>○地域で、不登校や困り感を抱える児童やその家族からの相談を受け、面接を実施するなど、入所等の適切な支援を行った。</p>		

<p>現状の課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○令和5年度は、性暴力を含む施設内虐待やいじめ防止に向けて、個別の聴き取り調査を実施することにより一定の成果を収めているが、聴き取る職員がポイントを把握し児童の気持ちを引き出せるよう、関わり方を改善することや、日頃の関わりから早期に児童の異変に気づき、速やかに対応ができるよう、意識して支援することが必要である。 ○退所後、児童養護施設へ措置変更されるケースが増加しており、リービングケアを含めたスムーズな移行支援を継続する取組が必要であるとともに、退所した後の児童・保護者からの相談も多いことから、更なるアフターフォローの充実が必要である。 ○発達特性のある児童の増加に伴い、精神科医による精神医学研修や、ケースアドバイスに基づく個別支援プログラムの充実に努めてきたところであるが、よりきめ細やかに対応することや、集団指導技法やSST、家族再統合プログラム、認知作業トレーニング等各種指導技法についても継続した見直しを行い、支援方法を改充することが必要である。 ○入所相談等において、発達特性のある児童の対応も多様化・個別化してきていることに加え、男女毎の部屋数の問題で入所できないケースが発生している。 ○利用率を向上させるため、児童相談所と連携し心理療法のニーズを的確に把握することが必要である。 ○外部からの見学等を通して、施設の機能の理解を深め、将来的に新たな入所につながるような取組の検討が必要である。 				
<p>改善方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○性暴力を含む施設内虐待防止のため、個別の児童からの聴き取り調査やアンケート調査を実施し、また、学校が実施する教育相談の活用等、学校と情報共有を行い連携強化に努めるとともに、虐待防止委員会において、事例の検証や防止に向けた具体的対策の検討を行う。 ○児童養護施設等へ移行が必要な場合には、スムーズな移行に繋がるよう、継続してリービングケアに継続して取り組み、特に中学3年生については、卒業に向けて早い段階でリービングケアを行うようプログラムを計画し、「マナー教室」などを実施する。 ○退所した児童に対するアフターフォローについては、関係機関と連携のもと継続的に実施する。 ○発達特性のある児童に対する「認知作業トレーニング」については、嘱託医の助言に基づき継続して実施するとともに、「認知機能強化トレーニング」については、引き続き対象児童を絞り込んで取り組み、中間評価も行う。 ○被虐待児に対する支援として、「トラウマケア」の専門的知識の習得に取り組む。 ○児童相談所と連携し、児童が抱える個別のニーズを的確に把握した対応に努める。 ○外部からの研修依頼や見学等を積極的に受け、施設の機能をアピールしていく。 				
<p>数値目標 (利用者数)</p>	<p>年度</p>	<p>令和6年度</p>	<p>令和7年度</p>	<p>令和8年度</p>	<p>令和9年度</p>
	<p>目標値 (人/月)</p>	<p>30</p>	<p>30</p>	<p>30</p>	<p>30</p>
<p>労働条件・環境</p>	<p>■適 □否 否の場合の内容と対応</p>				

指定管理施設名	母子・父子福祉センター				
指定管理者名	一般財団法人山口県母子寡婦福祉連合会				
指 定 期 間	令和3年4月1日 ～ 令和8年3月31日				
管理業務の実施状況	指定管理業務	運営業務		維持管理業務	その他県委託事業
	業務内容	<ul style="list-style-type: none"> ○母子家庭及び父子家庭並びに寡婦に係る各種相談 ○母子家庭及び父子家庭並びに寡婦の生活指導及び生業の指導 ○その他母子家庭及び父子家庭並びに寡婦の福祉のための便宜供与 ○山口県母子・父子福祉センターの開館及び閉館 ○条例又は規則に違反したときや指示に従わないときの利用の制限 		○施設及び設備の維持管理	<ul style="list-style-type: none"> ○母子家庭等就業・自立支援センター事業 ○ひとり親家庭等生活向上事業 ○ひとり親家庭等日常生活支援事業 ○子ども夢応援大学等受験料補助事業
	実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ○毎月第3日曜日相談、平日時間外相談、オンライン相談の実施等による相談体制の強化 ○相談関係機関、母子・父子自立支援員等との連携を密にし、業務の推進に努力 ○利用者の増加を図るため、施設、事業の周知等を拡充 		○計画的に施設・設備の維持管理を実施	<ul style="list-style-type: none"> ○巡回相談、求人情報等の提供、就業の斡旋（無料職業紹介事業）などを実施 ○一時的に子育てや生活支援が必要な家庭に家庭生活支援員を派遣
	未履行の有無	無		無	無
施設利用実績	利用者数(人)	令和4年度	957		
		令和5年度	1,269		
		増 減	312		
実績の分析	○主に離婚前相談が前年度より増加したことから、利用者数が増加				
利用促進に向けた新たな取組	<ul style="list-style-type: none"> ○離婚前相談の増加に伴い、離婚前・養育費等の相談対応として、離婚調停申立書等の作成支援、家庭裁判所等への同行支援等、養育費履行確保支援実施を強化 ○各市等の母子・父子自立支援員と連携した出張相談を実施 				
収 支 結 果	科 目	予算額(円)	決算額(円)	差異(円)	
	収 入	9,301,000	9,301,000	0	
	支 出	9,301,000	9,301,000	0	
	差引(収入-支出)	0	0	0	
	○効率的な管理運営と予算管理の徹底により、経費の節減等に努めた。				
サービスの質の評価 (利用者満足度調査結果等)	○意見箱を設置して相談者向けのアンケート調査を実施しており、相談員の対応・相談環境等について大多数の利用者が「とても満足・満足」と回答				
課題と改善方策等	前年度までの改善方策に対する取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ○離婚前相談対応において、離婚調停申立書等の作成及び家庭裁判所等への同行支援等を実施 ○各市等の母子・父子自立支援員と連携した出張相談を実施 ○各種チラシにSNSのQRコードを掲載するなど、SNSを活用した情報発信・情報提供を実施 ○相談が増加している養育費等に関する講座をホームページから常時視聴できるようにした 			
	現状の課題	<ul style="list-style-type: none"> ○離婚前・養育費履行確保等の相談者の大幅な増加の中で、離婚調停申立書等の作成支援、家庭裁判所等への同行支援等、養育費等支援事業への確実な対応 ○来所困難な市外の相談者に対する、各市等の自立支援員と連携した相談対応 ○支援等を必要とするひとり親家庭等の父母に対する業務内容等の周知 ○SNS等を活用した、利用者への必要な情報・有効な情報の提供 			
	改善方策	<ul style="list-style-type: none"> ○離婚前・養育費履行確保等の相談者の大幅な増加に対しては、相談員を1名増員し、離婚調停申立書等の作成支援、家庭裁判所等への同行支援等、養育費等支援を強化 ○各市等の母子・父子自立支援員と連携した出張相談を継続して実施 ○新規事業等色々な機会を利用して、ひとり親に対する業務内容等及び提供情報等を周知 			
数 値 目 標 (利用者数)	年 度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
	目標値(人)	1,300	1,300	1,300	1,300
労働条件・環境	■適 □否	否の場合の内容と対応			

指定管理施設名		国際総合センター			
指定管理者名		一般財団法人山口県国際総合センター			
指 定 期 間		令和3年4月1日 ～ 令和8年3月31日			
管理業務の実施状況	指定管理業務	施設運營業務	利用促進業務		維持管理業務
	業 務 内 容	○施設等の使用に関する業務	○施設等の利用促進に関する業務		○施設等の維持管理に関する業務
	実 施 状 況	○各施設の使用に関して予約受付から料金精算までの流れをスムーズに行うとともに、利用者ニーズに応じたきめ細やかなサービスの提供を行った。	○新規顧客の開拓等のコンベンション誘致活動や、各種イベントの企画立案・実施により、施設の利用促進に向けた積極的な取組を行った。		○施設管理担当者を配置し、効率的かつ適切な維持管理を行うとともに、経済的かつ施設利用者の安全安心に留意した維持管理業務を行った。
	未履行の有無	無	無		無
施設利用実績 (コンベンション)	稼働率 (%)	区 分	令和4年度	令和5年度	増 減
		展示見本市会場	77.4	36.8	△40.6
		イベントホール	30.2	19.5	△10.7
		国際会議場	23.2	24.8	1.6
		海峡ホール	22.3	28.4	6.1
		会議室	52.0	61.6	9.6
		平均稼働率	46.5	47.9	1.4
	実績の分析	○展示見本市会場・イベントホールについて、令和4年度はワクチン接種会場としての利用等から稼働率は高くなったが、令和5年度はコロナ禍前の稼働率と同水準となった。 ○その他の貸会場については、令和4年度を上回り、コロナ禍前の稼働率に近付いている。			
施設利用実績 (タワー)	利用者数 (人)	令和4年度	68,279		
		令和5年度	69,356		
		増 減	1,077		
	実績の分析	○令和4年度を上回り、コロナ禍前の入場者数に近付いている。			
利用促進に向けた新たな取組	○第1 (屋内) 駐車場の24時間化を試行的に実施するためのシステム更改工事等を実施し、利用者サービスの向上を図った。				

		科 目	予算額 (円)	決算額 (円)	差 異 (円)		
収 支 結 果		収 入	428,150,000	427,170,789	△979,211		
		事業活動収入	418,430,000	415,731,612	△2,698,388		
		(コンベンション)	62,827,000	59,043,936	△3,783,064		
		(タワー)	35,527,000	36,026,713	499,713		
		(駐車場)	9,424,000	10,039,800	615,800		
		(指定管理料)	212,167,000	212,167,000	0		
		(その他)	98,485,000	98,454,163	△30,837		
		投資活動収入	9,720,000	11,439,177	1,719,177		
		支 出	428,150,000	427,170,789	△979,211		
		事業活動支出	426,882,000	425,919,958	△962,042		
		投資活動支出	1,232,000	1,215,331	△16,669		
		法人税等	36,000	35,500	△500		
		差引 (収入－支出)	0	0	0		
		<p>○前年度と比較すると、タワー及び駐車場収入は、コロナ禍からの回復基調により増収となったが、コンベンション施設はワクチン接種に起因する長期的な利用が無かったことから、減収となった。</p> <p>○事業活動の減収と修繕費の増加への対応として、特定資産からの取崩しを実施した。</p>					
		サービスの質の評価 (利用者満足度調査結果等)		<p>○令和5年6月から12月までの間、利用者満足度アンケートを実施し、「スタッフの対応・印象」で「とても良い」「良い」が約88%、「当館をまた利用したいか」で「是非利用したい」「利用したい」が約96%という評価が得られた。</p>			
課題と改善 方針等	前年度までの 改善方針に 対する取組状況	<p>【コンベンション】</p> <p>○各会場の詳細な図面等をダウンロードできるようホームページの充実を図った。</p> <p>【タワー】</p> <p>○季節イベントを企画・実施するとともに、SNSを活用するなど、幅広い世代に対して広報活動を行うことにより、入場者増に努めた。</p>					
	現 状 の 課 題	<p>【コンベンション・タワー】</p> <p>○施設の稼働率及びタワー入場者数の増加</p> <p>○経年劣化による修繕費が増加傾向にある中での、適切な施設の維持管理及び運営</p>					
	改 善 方 策	<p>【コンベンション】</p> <p>○利用促進として有効と考えられる「貸館専用インターネット回線」の有益性を積極的に広報し、新規顧客の開拓及びリピーターの確保に努める。</p> <p>【タワー】</p> <p>○「ネーミングライツ」が導入されることから、県とも連携して広報活動の充実を図るとともに、リニューアルされる隣接の「海峡ゆめ広場」と連携した催事を検討し、効果的な集客に努める。</p>					
数 値 目 標		年 度	令和6年度	令和7年度			
コンベンション 稼働率 (%)		展示見本市	33.0	33.2			
		イベントホール	28.5	28.8			
		国際会議場	32.1	32.4			
		海峡ホール	30.7	31.0			
		8階会議室	67.2	67.8			
		その他	15.5	15.6			
タワー入場者数 (人)			94,642	100,000			
労働条件・環境		■適 □否	否の場合の内容と対応				

指定管理施設名	山口しごとセンター				
指定管理者名	株式会社日本マンパワー				
指 定 期 間	令和2年4月1日 ～ 令和7年3月31日				
管理業務の実施状況	指定管理業務	山口しごとセンターの管理			
	業 務 内 容	<ul style="list-style-type: none"> ○センターHP及び就職支援システムの管理・運営と広報 ○キャリアカウンセリング等の実施 ○U J I ターン就職促進事業 ○地域若者サポートステーションとの連携 ○ジョブカフェ相互の連携 ○県内企業への就職・定着の促進 ○東京圏からの移住・就業の促進 ○女性・シニアの新規就業の促進及び企業の人材確保支援 ○山口就職情報アプリの活用促進 ○国・県の雇用対策関連事業等との連携・相乗効果の発揮 			
	実 施 状 況	<ul style="list-style-type: none"> ○HPや就職情報アプリ等を活用して、各種就職情報を発信 ○センター、大学等及び県民局において、若者・女性・シニアを対象としたカウンセリングや就職支援セミナー等を実施 ○若者や保護者と県内企業との出会いの場を創出し、県内企業への就職・定着を促進する取組を実施 ○センター・東京・大阪の窓口にて、U J I ターン相談、情報提供、職業紹介等を実施 ○国・県等の雇用対策関連事業及び他機関と連携した就職フェアなど、各種事業を実施 			
	未履行の有無	無			
施設利用実績	利用者数(人)	令和4年度	50,108		
		令和5年度	55,571		
		増 減	5,463		
実績の分析	○関係機関と連携して実施した県内就職促進イベント等へ多くの参加者があったこと、大学低学年や更に早い段階向けのイベントへ積極的に取り組んだことなどにより、利用者数は過去最高となった。				
利用促進に向けた新たな取組	<ul style="list-style-type: none"> ○遠隔地在住者など、センターに来所して対面でのサービス利用が難しい利用者が、離れた場所からキャリアカウンセリングやセミナーを円滑に利用できるよう、オンライン機器を増強するなど実施体制を強化した。 ○就職活動を始める学生にセンターの利用を案内するため、山口大学正門前に設置してあるLEDビジョンでセンターを案内する映像を掲出した。 				
収 支 結 果	科 目	予算額(円)	決算額(円)	差 異(円)	
	収 入	178,266,000	178,266,000	0	
	支 出	178,266,000	178,865,276	599,276	
	差引(収入-支出)	0	△599,276	△599,276	
	○収入は、指定管理料のみ。 ○効率的な運営に努め、維持・管理コストは削減できたが、人件費や利用促進のための広報活動強化などによる支出額の増加により、単年度の収支は599,276円の支出超過となった。				
サービスの質の評価 (利用者満足度調査結果等)	○提供する就職支援サービスの利用者満足度調査(CS調査)を実施し、前年度に引き続き、施設・運営・カウンセリング・セミナーの項目において、100点満点中90点を超える高い評価を得ている。				
課題と改善方策等	前年度までの改善方策に対する取組状況	○県内大学等へ出張相談等を強化し、新規登録者の増加及び就職決定者の把握に努めた。 ○学生や転職希望者に加え、再び働くことを考える女性や働きたいシニア層に登録を働きかけた結果、新型コロナウイルス感染症流行前の水準まで新規登録者数は回復した。			
	現状の課題	○個人情報流出等に関する意識の高まりから、登録者本人に就職決定の有無を確認することが難しくなっている。			
	改善方策	○県内大学等との連携を強化するとともに、登録者本人への確認手段を増やすよう努める。			
数 値 目 標 (利用者数)	年 度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
	目標値(人)	42,500	—	—	—
労働条件・環境	■適 □否	否の場合の内容と対応			

指定管理施設名	下関武道館				
指定管理者名	ミズノグループ				
指 定 期 間	令和3年4月1日 ～ 令和8年3月31日				
管理業務の実施状況	指定管理業務	施設管理業務		企画運営業務	
	業務内容	○窓口業務 ○清掃業務 ○維持管理業務 ○植栽管理業務 ○施設・設備維持管理業務 ○日常点検業務 ○備品管理業務		○自主企画業務（バドミントン教室等）	
	実施状況	○適切に実施した。		○適切に実施した。	
	未履行の有無	無		無	
施設利用実績	利用者数(人)	令和4年度	59,421		
		令和5年度	63,748		
		増 減	4,327		
	実績の分析	○大道場については、床改修工事の実施に伴い令和5年12月から令和6年3月までの大会及びイベントがなくなったが、令和4年度に対して2,876人の増となった。 ○トレーニングルームについては、利用促進を目的とした初心者講習会の定期開催及び回数券の運用開始の効果により、令和4年度に対し4,965人増の11,941人となった。			
利用促進に向けた新たな取組	○トレーニングルームの利用について、新たに回数券の運用を開始し利用促進を図った。				
収 支 結 果	科 目	予算額(円)	決算額(円)	差異(円)	
	収 入	82,367,000	78,245,607	△4,121,393	
	支 出	82,367,000	84,018,506	1,651,506	
	差引(収入-支出)	0	△5,772,899	△5,772,899	
○新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行後、利用者は徐々に回復し、トレーニングルームでは、回数券の導入と初心者講習会の実施により令和4年度の利用者数を大きく上回ったが、利用料収入については、予算を下回る結果となった。 ○支出については、経年劣化による空調設備、照明設備の修繕及び消耗備品の購入等により予算を上回る結果となった。					
サービスの質の評価 (利用者満足度調査結果等)	○利用者アンケートで「スタッフの対応が親切で丁寧」、「施設が綺麗に管理されている」など、良い評価をいただいている。 ○施設アンケートでは、おすすめ度7.3(最高10)との評価を得ている。				
課題と改善方策等	前年度までの改善方策に対する取組状況	○HPを活用した大会やイベント情報の掲載を定期的に行った。 ○下関球場と連携し、SNS(X)を活用してイベント情報や施設のお知らせを発信した。 ○HPの掲載内容の見直しとお知らせ一覧の整理を行った。			
	現状の課題	○施設の利用促進のため、認知度向上に向けた取組 ○トレーニングルーム利用者の新規獲得、継続利用への取組			
	改善方策	○施設の認知度向上のため、下関球場と連携し市報への掲載を行う。 ○施設の利用促進のため、近隣の企業や病院等に広報活動を行う。			
数 値 目 標 (利用者数)	年 度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
	目標値(人)	75,000	89,000	—	—
労働条件・環境	■適 □否	否の場合の内容と対応			

指定管理施設名	スポーツ交流村				
指定管理者名	公益財団法人山口県ひとづくり財団				
指 定 期 間	令和3年4月1日 ～ 令和8年3月31日				
管理業務の実施状況	指定管理業務	運営に関する業務	使用に関する業務	維持管理に関する業務	
	業務内容	○受入事業（トレーニングルーム・ヨットハーバー） ○企画事業 ○その他（急病・救急時の対応等）	○使用申請の受付・許可 ○利用料金の徴収 ○食事などの必要なサービスの提供 ○事業にかかる広報	○建築物・設備機器保守管理 ○清掃、廃棄物処理 ○物品管理 ○保安警備 ○外溝・植木管理 ○環境衛生管理	
	実施状況	○受入事業は事業計画書どおり実施した。 ○企画事業は工夫改善を図り実施した。 ○急病・救急時の対応等の強化を図った。	○使用申請の受付、許可、利用料金の徴収を適正に行った。 ○施設、実施事業についてHPで積極的に情報発信を行うとともに、自主企画事業については、情報誌に掲載してPRを行った。	○必要に応じて業務委託を行うとともに、職員で分担して適正な維持管理に努めた。	
	未履行の有無	無	無	無	
施設利用実績	利用者数(人)	令和4年度	102,255		
		令和5年度	112,943		
		増 減	10,688		
実績の分析	○新型コロナウイルス感染症が5類に移行し制限が緩和され、宿泊室や研修室の利用者は増加したが、改修工事によりトレーニングルームや宿泊室・プールが一時利用休止になったため、全体の利用者数は対前年度比で10,688人の増加に留まった。				
利用促進に向けた新たな取組	○各種スポーツ教室において、新たに初心者向けの「身体調整ヨガ」、「有稀ヨガ」を実施した。 ○県スポーツ協会や光市等と共同開催している「HIKARI MARINE CUP」（セーリング大会）は、全国のセーラーが参加しやすいよう開催時期を8月から11月に変更した。 ○全国規模のヨットレース大会として、7月に西日本420級選手権、2月には全日本レーザー級ミッドウインターを誘致し、交流人口の拡大を図った。				
収 支 結 果	科 目	予算額(円)	決算額(円)	差異(円)	
	収 入	135,316,000	137,534,162	2,218,162	
	支 出	135,316,000	143,665,526	8,349,526	
	差引(収入－支出)	0	△6,131,364	△6,131,364	
○利用者の増加に伴い利用料金等が増収となり、収入は予算額を上回った。 ○利用者の増加に伴い賃金が増加したこと等により支出が予算額を大きく上回り、収支についてもマイナスとなった。					
サービスの質の評価 (利用者満足度調査結果等)	○宿泊者に対してアンケート調査を行った結果、手続き面では5段階評価で4.6、接遇面では4.8、施設面では4.6の評価をいただき、コメント欄においても、迅速かつ適切な対応や施設・設備の改善・充実に対して高評価のコメントが多数寄せられていた。				
課題と改善方策等	前年度までの改善方策に対する取組状況	○オンラインによる施設予約システムの改善や、ポスレジによる利用料金の徴収を開始し、利用者へのサービス向上と職員の業務軽減を図った。 ○県主導で、トレーニングルームの空調取替やボイラー・プールの改修工事など大掛かりな施設・設備の整備が行われ、安心かつ安定的なサービス提供が可能となった。 ○安全管理体制については、火災時の避難訓練や救急救命など職員研修を実施した。			
	現状の課題	○新型コロナウイルス感染症により減少したプール・トレーニングルームの利用者の回復 ○スポーツ教室の講座内容の工夫・改善による、新規参加者の増加			
	改善方策	○トレーニングルームにおいて、本所職員の専門性を活かした特色あるメニューを実施する。 ○企画事業においては、近隣の他施設でも同様の取組が行われているため、利用者のニーズに対応した本所独自のプログラムを実施する。			
数 値 目 標 (利用者数)	年 度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
	目標値(人)	114,000	118,000	—	—
労働条件・環境	■適 □否	否の場合の内容と対応			

指定管理施設名		美術館				
指定管理者名		サントリーパブリシティサービスグループ				
指 定 期 間		令和3年4月1日 ～ 令和8年3月31日				
管理業務の実施状況	指定管理業務	企画運営業務		施設使用許可業務		施設設備維持管理業務
	業 務 内 容	○美術品等の展示に付帯する業務 ○美術その他の芸術に関する講演会等開催業務 ○美術その他の芸術に関する生涯学習支援業務 ○その他文化振興に必要な業務		○展示室・講座室の使用許可等に関する業務		○施設設備の維持管理に関する業務
	実 施 状 況	○企画運営業務が適切に行われた。		○使用許可業務が適切に行われた（15件）。		○施設修繕等、施設の維持管理及び管理業務が適切に行われた。
	未履行の有無	無		無		無
施設利用実績		利用者数（人）		令和4年度	124,885	
				令和5年度	237,216	
				増 減	112,331	
		実績の分析		○「ジブリパークとジブリ展」の開催により県内外からの来館者が増加し、前年度を大幅に上回った。		
利用促進に向けた新たな取組		○視認性の向上やスマートフォン対応を可能とするため、公式ホームページを更新 ○コロナ後のマーケティング調査の実施 ○旅行者によるモニターツアーの受入れ				
収 支 結 果		科 目	予算額（円）	決算額（円）	差 異（円）	
		収 入	181,265,000	183,710,432	2,445,432	
		支 出	181,265,000	183,455,200	2,190,200	
		差引（収入－支出）	0	255,232	255,232	
		○収入は、特別展の規模拡大による施設利用料増により増加 ○支出は、緊急の施設修繕工事により増加				
サービスの質の評価（利用者満足度調査結果等）		○来場者アンケートにおける満足度は高く、適切なサービスの提供が行われたと評価できる。（利用者満足度〔評価：普通以上〕94.7%）				
課題と改善方策等	前年度までの改善方策に対する取組状況	○引き続き感染症対策を実施しながらイベントを開催するため、混雑対策を含めた新たな取組として、時間制オンライン予約・決済システムを導入した。 ○公式ホームページを更新するとともに、顧客の世代に応じた有効な情報発信手段として、SNSでの情報発信を強化した。				
	現状の課題	○総体的には利用者数は増加しているが、企画展の開催数の減により利用者数及びメンバーズクラブ会員数が減少				
	改善方策	○より積極的に広報活動を行う。 ○利用者の受入れオペレーションに、より機能性を持たせ、利用者の満足度を高めることにより、他の企画展への集客につなげる。				
数 値 目 標（利用者数）		年 度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
		目標値（人）	196,000	198,000	—	—
労働条件・環境		■適 □否	否の場合の内容と対応			

指定管理施設名		菽美術館・浦上記念館			
指定管理者名		サントリーパブリシティサービスグループ			
指定期間		令和3年4月1日～令和8年3月31日			
管理業務の実施状況	指定管理業務	企画運営業務	施設使用許可業務	施設設備維持管理業務	
	業務内容	○美術品等の展示に付帯する業務 ○美術その他の芸術に関する講演会等開催業務 ○美術その他の芸術に関する生涯学習支援業務 ○その他文化振興に必要な業務	○展示室・講座室の使用許可等に関する業務	○施設設備の維持管理に関する業務	
	実施状況	○企画運営業務が適切に行われた。	○使用許可業務が適切に行われた（13件）。	○施設修繕等、施設の維持管理及び管理業務が適切に行われた。	
	未履行の有無	無	無	無	
施設利用実績	利用者数(人)	令和4年度	28,666		
		令和5年度	43,353		
		増減	14,687		
	実績の分析	○企画展に関連した自主事業やイベント開催による誘客により、展覧会の観覧者を集客できた。			
利用促進に向けた新たな取組	○視認性の向上やスマートフォン対応を可能とするため、公式ホームページを更新 ○コロナ後のマーケティング調査の実施 ○WEBアンケートや翻訳機の導入				
収支結果	科目	予算額(円)	決算額(円)	差異(円)	
	収入	211,970,000	210,929,390	△1,040,610	
	支出	211,970,000	210,668,693	△1,301,307	
	差引(収入－支出)	0	260,697	260,697	
	○収入は、企画展の開催回数の減により減少 ○支出は、光熱費については当初の想定より高騰しなかったため、緊急の施設修繕工事と自主事業の追加実施があったものの、全体としては減少				
サービスの質の評価 (利用者満足度調査結果等)	○来場者アンケートにおける満足度は高く、適切なサービスの提供が行われたと評価できる。 (利用者満足度 [評価：普通以上] 97.8%)				
課題と改善方策等	前年度までの改善方策に対する取組状況	○引き続き感染症対策を実施しながら様々なイベントを開催し、新たな取組として、翻訳機を導入するなど、インバウンドへの対応を行った。 ○公式ホームページを更新するとともに、顧客の世代に応じた有効な情報発信手段として、SNSでの情報発信を強化した。			
	現状の課題	○総体的には利用者数は増加しているが、企画展の開催数の減により利用者数及びメンバーズクラブ会員数が減少			
	改善方策	○より積極的に広報活動を行う。 ○自主事業や地域と連携した交流事業などを実施し、展覧会への誘客につなげる。			
数値目標 (利用者数)	年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
	目標値(人)	64,000	66,000	—	—
労働条件・環境	■適 □否	否の場合の内容と対応			

指定管理施設名		県民文化ホールいわくに			
指定管理者名		サントリーパブリシティサービスグループ			
指定期間		令和3年4月1日～令和8年3月31日			
管理業務の実施状況	指定管理業務	文化事業に関する業務	施設使用許可業務	施設設備維持管理業務	
	業務内容	○文化活動その他学校活動の機会の提供に関する業務 ○文化活動その他学習活動に関する情報及び資料の収集並びに提供に関する業務 ○その他、文化の振興を図るために必要な業務	○施設の使用の許可に関する業務	○施設及び設備の維持管理に関する業務 ○その他、県民文化ホールを管理するために必要な業務	
	実施状況	○文化事業が実施され、一流の芸術作品等の提供等が行われた。	○施設使用許可業務が適切に行われた(1,227件)。	○施設修繕等、施設の維持管理及び管理業務が適切に行われた。	
	未履行の有無	無	無	無	
施設利用実績	利用者数(人)	令和4年度	124,606		
		令和5年度	153,614		
		増減	29,008		
	実績の分析	○新型コロナウイルス感染症の5類感染症移行に伴う開放感の高まりもあり、利用者数はコロナ前の水準に向けて回復基調にある。			
利用促進に向けた新たな取組	○プレスリリースサイトを活用した、公演情報の不特定多数への周知 ○貸館施設検索WEBサイト「会場ベストサーチ」への施設情報掲載 ○コロナ禍以前に発表会などの利用歴がある団体等への活動再開の働きかけ				
収支結果	科目	予算額(円)	決算額(円)	差異(円)	
	収入	306,745,000	301,435,215	△5,309,785	
	支出	306,745,000	312,122,178	5,377,178	
	差引(収入-支出)	0	△10,686,963	△10,686,963	
	○収入は、コロナ禍を経て催事形態及び施設利用規模が縮小化したこと等により減少 ○支出は、利用促進のための広告費の増加等に伴い増加				
サービスの質の評価 (利用者満足度調査結果等)	○利用者(来場者)アンケートを実施 ○満足度は、文化事業 91.4%、貸館事業 96.2% ○ホスピタリティ面や公演の企画内容で高い評価				
課題と改善方策等	前年度までの改善方策に対する取組状況	○X(旧:Twitter)での投稿回数を増やし、チケットの発売情報や施設の予約状況など、効率的な情報発信を積極的に行った。 ○学生割引や託児サービスの対象となる公演を前年度よりも増やすことで、若年層の利用促進を図った。			
	現状の課題	○利用者数増加の一方で、コロナ禍を経て停滞している施設利用率の回復			
	改善方策	○コロナ禍を経て変化している来場者のニーズを捉えた情報発信を実施する。 ○インターネット申請など、利用手続きの簡易化により、若年層の新規利用者の獲得を図る。			
数値目標 (利用者数)	年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
	目標値(人)	230,000	230,000	—	—
労働条件・環境	■適 □否	否の場合の内容と対応			

指定管理施設名		秋吉台国際芸術村				
指定管理者名		公益財団法人山口きらめき財団				
指 定 期 間		令和3年4月1日 ～ 令和8年3月31日				
管理業務の実施状況	指定管理業務	文化事業に関する業務	施設使用許可業務	施設設備維持管理業務		
	業 務 内 容	○芸術に関する創作的活動の機会を提供に関する業務 ○芸術に関する講習業務 ○芸術に関する情報・資料の収集及び提供に関する業務 ○芸術に係る人材育成及び交流促進に資するために必要な業務	○施設の使用の許可に関する業務	○施設及び設備の維持管理に関する業務 ○その他、芸術村を管理するために必要な業務		
	実 施 状 況	○各種文化事業が実施され、幅広い芸術分野の創作・表現活動や人材育成、地域交流の各事業が行われた。	○施設使用許可業務が適切に行われた（869件）。	○施設修繕等、施設の維持管理及び管理業務が適切に行われた。		
	未履行の有無	無	無	無		
施設利用実績		利用者数（人）	令和4年度	21,760		
			令和5年度	20,408		
			増 減	△1,352		
		実績の分析	○コロナ禍以前の水準には及ばないものの施設の利用者は回復傾向にある。 ○前年度と比較し、建物使用許可件数 10.8%増、本館棟利用率 2.6%増、宿泊棟利用率 0.4%増。 ○施設全体利用者数減の理由は、主にレストランの撤退による利用者数の減によるもの。			
利用促進に向けた新たな取組		○開村 25 周年記念企画の実施 ○新規文化事業の展開（秋吉台音楽コンクール山口県知事賞受賞記念コンサート、高校生対象の弦楽器講習会、大学との連携による美術展、外国人住民のための絵手紙講座ほか） ○利用者サービスの向上（温水便座の導入、レストラン業者の更新ほか）				
収 支 結 果		科 目	予算額（円）	決算額（円）	差異（円）	
		収 入	229,169,000	231,227,930	2,058,930	
		支 出	229,169,000	209,746,798	△19,422,202	
		差引(収入－支出)	0	21,481,132	21,481,132	
		○収入増要因：貸館利用者増加による施設利用収入の増、宿泊者増に伴う施設管理雑収益の増 ○支出減要因：給料手当及び福利厚生費の減少、電気料金の安定化に伴う光熱水費の減少				
サービスの質の評価 (利用者満足度調査結果等)		○利用者（来場者）アンケート調査を実施 ○満足度は、文化事業 93.0%、貸館事業 89.2%				
課題と改善方策等	前年度までの改善方策に対する取組状況	○各種広報媒体を利用した情報発信（HP、SNS、ラジオ出演、広報誌発行、情報誌への掲載） ○秋吉台音楽コンクールのアーカイブ配信 ○施設の計画的な修繕・補修（温水洗浄便座導入、宿泊棟の防カビ及び結露改善）				
	現状の課題	○本施設の特性を活かした利用促進への取組 ○施設・設備・備品の老朽化、経年劣化等への対応 ○業務実施体制の強化				
	改善方策	○ニーズに応じた主催事業の実施、レストランを活用した事業展開 ○改修、修理等が必要な設備の洗い出しと修繕計画の策定（利益の活用による修繕対応有り） ○職員研修の充実化（経理業務研修、芸術文化の専門研修、語学研修）、顧問税理士の活用				
数 値 目 標 (利用者数)		年 度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
		目標値（人）	37,700	40,000	—	—
労働条件・環境		■適 □否	否の場合の内容と対応			

指定管理施設名		県民芸術文化ホールなかと				
指定管理者名		公益財団法人長門市文化振興財団				
指定期間		令和3年4月1日～令和8年3月31日				
管理業務の実施状況	指定管理業務	文化事業に関する業務	施設使用許可業務	施設設備維持管理業務		
	業務内容	○芸術活動その他文化活動の機会の提供に関する業務 ○芸術活動その他の文化活動に関する情報及び資料の収集並びに提供に関する業務 ○その他、伝統的な芸能その他の芸術の振興を図るために必要な業務	○施設の使用の許可に関する業務	○施設及び設備の維持管理に関する業務 ○その他、県民芸術文化ホールなかとを管理するために必要な業務		
	実施状況	○伝統的芸能の上演や地域文化団体等の活動などの文化事業を実施した。	○施設使用許可業務が適切に行われた(1,359件)。	○施設修繕等、施設の維持管理及び管理業務が適切に行われた。		
	未履行の有無	無	無	無		
施設利用実績		利用者数(人)	令和4年度	39,942		
			令和5年度	39,814		
			増減	△128		
		実績の分析	○新型コロナウイルス感染症の5類感染症移行に伴い、施設利用の状況は回復の途上にあるが、令和5年度については、一部事業の中止等の影響により、利用者数は前年度から横ばい(微減)の状況である。			
利用促進に向けた新たな取組		○メールマガジン等、新たな広報媒体を活用した広報活動の推進 ○クレジットカード、QRコード、ICカード全てに対応したキャッシュレス決済サービスの導入				
収支結果		科目	予算額(円)	決算額(円)	差異(円)	
		収入	199,663,000	207,232,119	7,569,119	
		支出	199,663,000	206,477,200	6,814,200	
		差引(収入-支出)	0	754,919	754,919	
		○収入：事業収入、施設使用料金等の増加に伴い増加 ○支出：物価の高騰(光熱水費等)に伴い増加				
サービスの質の評価(利用者満足度調査結果等)		○多彩なジャンルの文化事業の実施や施設利用者へのきめ細やかな対応等が評価されており、「文化事業」で満足度96.2%、「貸館事業」で満足度97%となっている。				
課題と改善方策等	前年度までの改善方策に対する取組状況	○利用者数・入場料収入の増加及び入場者満足度向上に向け、積極的な補助金の活用や他団体との協働開催による良質な事業の継続に努めた。 ○SNSやメールマガジン等を活用することにより、情報発信の強化とコスト削減の両立を図った。				
	現状の課題	○コロナ禍を経て減少した文化事業鑑賞・貸館事業利用者数の回復継続				
	改善方策	○限られた資金の中で、補助金等を最大限に活用することにより、ニーズを踏まえた魅力的な事業実施に努める。 ○SNSやメールマガジン等を活用した情報発信の強化に引き続き取り組む。				
数値目標(利用者数)		年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
		目標値(人)	75,000	75,000	—	—
労働条件・環境		■適 □否	否の場合の内容と対応			

指定管理施設名		埋蔵文化財センター				
指定管理者名		公益財団法人山口県ひとづくり財団				
指 定 期 間		令和3年4月1日 ～ 令和8年3月31日				
管理業務の実施状況	指定管理業務	埋蔵文化財保護に関する業務		施設・設備の維持管理に関する業務		
	業務内容	○埋蔵文化財の調査及び研究 ○発掘により発見された文化財の保護 ○埋蔵文化財の保護に関する指導及び助言 ○出土文化財・埋蔵文化財に関する資料の活用 ○埋蔵文化財に関する普及教育活動		○施設管理 ○設備管理 ○物品管理		
	実施状況	○事業計画に基づき適切に実施された。		○事業計画に基づき適切に実施された。		
	未履行の有無	無		無		
施設利用実績		利用者数(人)	令和4年度	492		
			令和5年度	719		
			増 減	227		
		実績の分析	○HP等による事業案内の充実化、山口博物館特別展示協賛事業開催等により、センター利用者及びイベント参加者が増加した。			
利用促進に向けた新たな取組		○報告書掲載出土品以外の遺物のデータベースを年次計画的に作成することとし、センター収蔵室の整理を行うとともに、県内市町及び県外発掘調査機関等からの照会に対しても幅広い指導・助言・支援ができるよう整理を行った。				
収 支 結 果		科 目	予算額(円)	決算額(円)	差異(円)	
		収 入	34,639,000	34,639,000	0	
		支 出	34,639,000	34,590,874	△48,126	
		差引(収入－支出)	0	48,126	48,126	
		○予算の効率的かつ適正な執行に努めるとともに、電気代など経費の節減に努めた。				
サービスの質の評価 (利用者満足度調査結果等)		〈来館者アンケート実施結果〉 ○職員の対応 : 満足85%、やや満足2%、普通12%、やや不満0%、不満0% ○展示内容 : 満足75%、やや満足16%、普通8%、やや不満0%、不満0%				
課題と改善方策等	前年度までの改善方策に対する取組状況	○引き続き、センター外での巡回展や出前授業等の普及教育活動に積極的に取り組む。 ○センター利用者は県内在住者が多数を占めることから、リピーター増につながる展示に努める。				
	現状の課題	○入館者・利用者の増加 ○出土品の収蔵スペースの確保 ○施設・設備の老朽化への対応				
	改善方策	○広報の改善・強化及び学校への働きかけの継続 ○展示内容や紹介方法の工夫				
数 値 目 標 (利用者数)		年 度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
		目標値(人)	700	750	—	—
労働条件・環境		■適 □否	否の場合の内容と対応			

指定管理施設名		やまぐちフラワーランド		
指定管理者名		一般財団法人やない花のまちづくり振興財団		
指定期間		令和3年4月1日～令和8年3月31日		
管理業務の実施状況	指定管理業務	花きとのふれあいの機会の提供業務	花きに関する情報及び資料収集業務	その他花き園芸の振興を図るために必要な業務
	業務内容	<ul style="list-style-type: none"> ○良好な花壇・庭園の提供 ○花に関する各種講座、体験教室、イベント等の開催 	<ul style="list-style-type: none"> ○図書情報室の管理運営 ○ホームページの運営、情報誌の発行等 	<ul style="list-style-type: none"> ○他団体等との共同イベント等の実施及び他団体等が開催するイベント等の支援 ○学校行事としての利用促進 ○地域振興に資する活動等への取組 ○物販施設の運営
	実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ○年間7回の植替えを実施し、延べ38万本の花を植栽しており、庭園管理技術の向上により、良好な庭園が維持・管理されている。 ○年4回の季節ごとのフェスタをはじめ、年間355回のイベントや年間126回の講座、常設の体験、見学会などを実施するとともに、隣接する山口県花き振興センターの見学会を開催し、年間466人の見学者を案内している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○図書情報室に、花に関する図書・書籍を備え、情報収集が可能な環境を整備している。 ○ホームページや携帯会員へのメールマガジン、フェイスブックなど、SNSによるイベント情報や庭園情報を提供するとともに、月ごとのイベント情報誌を発行・配布している。 ○園内の見どころマップを毎月前半と後半に作成し、掲示・配布している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○花卉園芸推進協議会や花卉園芸組合連合会と共同で花き展示会やイベントを開催し、生産者と生花商の交流会等にも積極的に参加している。 ○花育活動として、地域の小学生を対象に、花苗栽培、花の利活用の講座を実施している。 ○フラワーランド倶楽部や育苗ボランティアを組織するとともに、市民花壇を対象とした花いっぱい運動の支援活動を実施している。 ○庭園に植栽されている花の苗や県内生産者の花きなどを積極的に販売し、施設利用者の花きへの関心や関与を向上させるべく、物販事業を展開している。
	未履行の有無	無	無	無
施設利用実績	利用者数(人)	令和4年度	84,834	
		令和5年度	78,293	
		増減	△6,541	
実績の分析	<ul style="list-style-type: none"> ○多客期の4・5月が天候に恵まれなかったことや、夏場の猛暑等が影響し、前年度より入園者数は減少した。 ○一方で、地域団体や花き生産者等との連携、家庭の日を活用したイベントの実施などにより、入園割合が増加した月もあった。 			
利用促進に向けた新たな取組	<ul style="list-style-type: none"> ○新しい生活様式を意識した各種講座、体験教室、イベント等を実施した。 ○県内産花き・種苗会社推奨の花きの活用やインスタ映えを意識した花壇づくりを実施した。 ○フェイスブックやインスタグラムなどのSNSによる情報発信に注力した。 			
収支結果	科目	予算額(円)	決算額(円)	差異(円)
	収入	219,139,000	231,866,741	12,727,741
	支出	218,321,000	230,857,470	12,536,470
	差引(収入-支出)	818,000	1,009,271	191,271
	<ul style="list-style-type: none"> ○予算額及び決算額は損益ベースで計上している。 ○入園者数・入園料収入とともに当初見込みを下回り、県産品応援キャンペーン等も活用したが、鉢苗物や園芸用品等の物販売上も減少した。 ○開園18年が経過した施設の修繕、人件費・光熱費・資材費の高騰により、経費支出が増加した。 			

<p>サービスの質の評価 (利用者満足度調査結果等)</p>	<p>○コロナ禍を経て、新しい生活様式を意識した花とのふれあいの機会の提供に努めているが、運営目標であるガーデニングの提案や花への親しみ・心が安らぐ憩いの空間として利用されており、利用者の満足度は高いと評価できる。</p> <p>○これまでアンケートで意見があった感染症に対する不安への対応として、注意喚起ポスターや手指消毒器などの充実、換気などを行っている。</p> <p>○園路や階段などの危険箇所やセンタープラザ内の廊下の修繕など、施設の機能維持に努めている。</p> <p>○花車下の池の落ち葉を定期的に拾うなど、池の清潔感の維持に努めている。</p> <p>○種苗会社等と連携を図り、バラや新しい品種の植栽など、ニーズに応じた庭園づくりに努めている。</p> <p>○スタッフの接客対応や庭園管理の状況など、年々レベルアップが図られており、質の高いサービスを引き続き提供している。</p>				
<p>課題と改善方策等</p>	<p>前年度までの改善方策に対する取組状況</p>	<p>○施設利用者数の拡大</p> <p>①福祉施設での園芸教室の開催、近隣小学校へのパスポート販促活動を実施した。</p> <p>②花のおくりもの体験、摘み取り体験など、気軽に参加でき、花の持つ多様性を実感できるイベントを定期的に開催した。</p> <p>③雨の日や寒い日などのスタンプ特典を充実させ、来園者の定着や再来園の増加を図った。</p> <p>④県内花き生産者と連携し、県産花きの展示や花の地産地消をより一層PRし、鉢苗購入目的の来園者増加を図った。</p> <p>⑤地元企業などと連携したPR・イベントを実施し、認知度の向上や新たな客層の獲得に努めた。</p> <p>⑥図書情報室の蔵書の充実やキッズコーナーの設置等により、施設としての魅力向上に努めた。</p> <p>○施設の老朽化対策・機能充実</p> <p>①施設のエアコン改修や手洗い場の設置、花壇の土留めの改修等により、来園者が安全で快適に利用できるように施設の機能維持を図った。</p> <p>○庭園の魅力向上</p> <p>①良質な花壇・庭園の提供を行うために、フラワーガーデン等の植替えを年7回実施し、庭づくりのモデル提案を行った。</p> <p>②県産の花苗や種苗会社と連携した推奨花苗を植栽し、自宅でも実践できる庭園づくりに努めるとともに、適正品種の確認と次年度植栽計画への反映を行った。</p> <p>③季節の行事・イベントの開催時期に合わせて、オーナメントやトピアリーを利用したフォトスポットを設置し、SNSへの発信を促した。</p> <p>④芝生や樹木、隣接する山林部も一体的に管理し、テーブルやベンチを増設することで、ゆっくりくつろぐことができる空間の整備を行った。</p> <p>⑤園内の見どころマップを毎月前半と後半に作成し、掲示と配布を行った。</p> <p>⑥フラワーランド倶楽部会員を中心に、花き専門家の養成に努めた。</p>			
	<p>現状の課題</p>	<p>○施設利用者（入園者）数の拡大</p> <p>○施設や機器、器具等の老朽化対策・機能充実</p> <p>○庭園の連作障害対策と更なる庭園の魅力向上</p>			
	<p>改善方策</p>	<p>○施設利用者数の拡大</p> <p>①福祉施設や教育施設、各種団体へのPR活動を強化</p> <p>③家庭の日を活用した子育て応援企画の充実</p> <p>②花の多様性を実感できる体験型イベントや、参加・交流型のイベント等の充実</p> <p>③屋内空間を有効に活用し、気候・天候に左右されない体験教室やイベントの実施</p> <p>④報道機関への情報提供、SNSを活用した情報発信の強化</p> <p>⑤花き関連団体や地域団体との連携強化による、「マイクロツーリズム」等の一面を担う花き総合拠点施設としての充実</p> <p>⑥自宅や職場とは違う心地よい居場所「サード・プレイス」の価値を創造</p> <p>⑦関係機関と連携し「シビックプライド」を醸成</p> <p>○施設の老朽化対策・機能充実</p> <p>①利用者が安全で快適に利用できるように施設設備の機能維持</p> <p>○庭園の魅力向上</p> <p>①県内生産者や国内外種苗メーカーと連携した種苗の選択と植栽への活用</p> <p>②イベントや体験教室を通じ、より多くの人に対し花と接する機会を提供</p> <p>③庭園管理従事者など花き専門家の養成</p>			
<p>数値目標 (利用者数)</p>	<p>年 度</p>	<p>令和6年度</p>	<p>令和7年度</p>	<p>令和8年度</p>	<p>令和9年度</p>
<p>労働条件・環境</p>	<p>■適 □否</p>	<p>否の場合の内容と対応</p>			

指定管理施設名		栽培漁業センター（外海、外海第二、内海）			
指定管理者名		公益社団法人山口県栽培漁業公社			
指定期間		令和3年4月1日～令和8年3月31日			
管理業務の実施状況	指定管理業務	種苗生産業務	指導研修業務	維持管理業務	
	業務内容	○水産動植物の種苗の生産及び配布（14魚種）	○放流種苗の中間育成等に係る指導	○センター施設の維持管理	
	実施状況	○全魚種において、おおむね計画以上の生産・配布を行った。	○中間育成指導114件、放流指導188件を実施した他、2,673人の視察研修を受け入れた。	○緊急性の高いものから優先的に修繕を行った。	
	未履行の有無	無	無	無	
種苗生産実績	種苗生産尾数（尾）	令和4年度	15,046,000		
		令和5年度	15,989,000		
		増減	943,000		
	実績の分析	○県内漁業者等の需要に基づいて県が作成した種苗生産計画（12,963千尾）を上回った。			
種苗生産に向けた新たな取組	○地道な取組であるが、種苗配布等で現地へ赴いた際や電話等による種苗中間育成担当者からの質問に、できる限り懇切丁寧に説明するよう努めた。 ○種苗出荷の日程調整は、可能な限り相手の要望に添うよう努めた。				
収支結果	科目	予算額（円）	決算額（円）	差異（円）	
	収入	314,036,000	321,593,488	7,557,488	
	支出	337,669,000	333,894,441	△3,774,559	
	差引（収入－支出）	△23,633,000	△12,300,953	11,332,047	
	○収入：指定管理料収益は同額であるが、特定資産運用益、その他（県）収益及び雑収益の増により増加 ○支出：緊急の対応が必要な修繕費が増加したが、事業費全体では減少				
サービスの質の評価（利用者満足度調査結果等）	○キジハタについて、前年度に引き続き計画を上回る生産を達成し、漁業者の期待に応えた。 ○アユの生産中に発生する形態異常魚については、その混入率を定期的にチェックし、配布先の理解を得ながら、極力異常魚の混入がない健苗配布に努めた。				
課題と改善方策等	前年度までの改善方策に対する取組状況	○生産技術：需要・要望の多いキジハタについて、計画を上回る生産を実現した。 ○疾病対策：水産研究センターと連携して早期の検査依頼を行い、感染症防止に努めた。 ○施設管理：施設の老朽化による故障、危険箇所については、県と分担して緊急度の高いものから計画的な修繕を行った。			
	現状の課題	○安定生産：大型種苗の需要増等による飼育期間の長期化に伴う施設や水量の不足と過密飼育 ○疾病対策：ヒラメ・トラフグ・クルマエビ等の感染症への対策検討 ○施設管理：施設等の全体的な老朽化による修繕費の加速度的増加			
	改善方策	○安定生産：重要基幹設備の拡充と施設の効率的な利用の徹底 ○疾病対策：基本防除の徹底と発生時の水産研究センター等との更なる連携強化 ○施設管理：老朽化の度合いや緊急度、重要度に応じた、県との分担による計画的な修繕			
数値目標（種苗生産計画達成率）	年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
	目標値（%）	100	100	—	—
労働条件・環境	■適 □否	否の場合の内容と対応			

指定管理施設名		徳山漁港プレジャーボート用浮棧橋等				
指定管理者名		山口県漁業協同組合				
指 定 期 間		令和3年4月1日 ～ 令和8年3月31日				
管理業務の実施状況	指定管理業務	運營業務		維持管理業務		
	業 務 内 容	○利用許可 ○利用料金徴収等		○施設点検、清掃、補修等		
	実 施 状 況	○利用許可 ○利用料金徴収		○毎日のトイレ清掃、場内簡易清掃 ○毎月2回の全体清掃 ○毎月1回の施設点検 ○簡易な補修工事の実施 ○アンカーロープの新調 ○植栽の剪定 ○繋船の指導		
	未履行の有無	無		無		
施設利用実績		利用者数(人)	令和4年度	102		
			令和5年度	100		
			増 減	△2		
		実績の分析	○高齢等により船を手放すなど、利用を廃止する者が増加したため、利用者が減少した。			
利用促進に向けた新たな取組		○利用者の船舶の大きさ等の状況に応じた係船場所を整備し、利便性を確保した。 ○係船ロープ整備やアンカーロープ調整を管理者で実施し、利便性の向上を図った。				
収 支 結 果		科 目	予算額(円)	決算額(円)	差 異(円)	
		収 入	7,400,000	6,405,260	△994,740	
		支 出	7,400,000	6,405,260	△994,740	
		差引(収入-支出)	0	0	0	
		○前年度より収入が増加したものの、物価高騰等によりロープ交換等の支出も増加した。				
サービスの質の評価 (利用者満足度調査結果等)		○事故発生時の迅速な対応等により、利用者や利用者協議会から信頼を得ている。				
課題と改善方策等	前年度までの改善方策に対する取組状況	○日常的に施設内を巡視し、船舶に異常がみられた場合は、利用者へ直ちに連絡した。 ○新規申込者に利用者協議会への加入を勧め、利用者間の互助体制の向上に努めた。 ○施設の保守作業時にアンカー位置の調整等を行い、施設利用環境の向上に努めた。				
	現状の課題	○高齢等の理由から、船舶を手放して利用を廃止する者が増加している。 ○船舶所有に伴う経済的な負担を理由に、新たな船舶取得者が減少している。 ○施設・設備の老朽化により、修繕を要する機会が増えている。				
	改善方策	○今後も利用促進に向けて、随時申込、即時許可を実施して利用率向上に努める。				
数 値 目 標 (利用者数)		年 度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
		目標値(人)	108	109	109	109
労働条件・環境		■適 □否	否の場合の内容と対応			

指定管理施設名		見島漁港可動橋			
指定管理者名		萩市			
指 定 期 間		令和3年4月1日 ～ 令和8年3月31日			
管理業務の実施状況	指定管理業務	維持管理業務	運營業務	料金徴収業務	
	業 務 内 容	○清掃、保守点検、補修等	○施設操作等	○利用料金徴収	
	実 施 状 況	○萩海運有限会社に一部管理委託し、清掃、保守点検、補修を行っている。	○萩海運有限会社に管理委託し、施設操作を行っている。	○萩海運有限会社に管理委託し、利用料金徴収を行っている。	
	未履行の有無	無	無	無	
施設利用実績	利用者数(人)	令和4年度	32,575		
		令和5年度	35,341		
		増 減	2,766		
	実績の分析	○新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行され、島民以外の見島への渡航が増加した。			
利用促進に向けた新たな取組	○特記事項なし				
収 支 結 果	科 目	予算額(円)	決算額(円)	差 異(円)	
	収 入	3,220,000	3,005,800	△214,200	
	支 出	4,340,000	4,875,395	535,395	
	差引(収入-支出)	△1,120,000	△1,869,595	△749,595	
	○車両や大型荷物輸送に伴う可動橋の利用回数が減少したため、収入減となった。 ○施設の点検、補修等費が利用料金を上回っている。 ○島民生活の利便性確保のため、本土と見島を結ぶ唯一の公共交通機関としての定期船航路を維持することを目的に、市として政策的な支出を実施している。				
サービスの質の評価(利用者満足度調査結果等)	○定期船利用者からの苦情もなく、概ね良好と判断される。				
課題と改善方策等	前年度までの改善方策に対する取組状況	○特記事項なし			
	現状の課題	○特記事項なし			
	改善方策	○特記事項なし			
数 値 目 標 (利用者数)	年 度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
	目標値(人)	35,000	35,000	35,000	35,000
労働条件・環境	■適 □否	否の場合の内容と対応			

指定管理施設名	見島漁港宇津多目的広場				
指定管理者名	萩市				
指定期間	令和3年4月1日～令和8年3月31日				
管理業務の実施状況	指定管理業務	維持管理業務	運営業務	料金徴収業務	
	業務内容	○清掃、保守点検、補修等	○利用の問い合わせ対応、利用届の受付等	○利用料金徴収	
	実施状況	○山口県漁業協同組合に一部業務委託して清掃、保守点検、補修等を実施	○山口県漁業協同組合に一部業務委託して利用届の受付等を実施	○山口県漁業協同組合に業務委託して利用料金徴収を実施	
	未履行の有無	無	無	無	
施設利用実績	利用者数(人)	令和4年度	0		
		令和5年度	40		
		増減	40		
	実績の分析	○新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行され、地元住民によるソフトボール場の利用があった。			
利用促進に向けた新たな取組	○特記事項なし				
収支結果	科目	予算額(円)	決算額(円)	差異(円)	
	収入	6,000	0	△6,000	
	支出	18,160	0	△18,160	
	差引(収入－支出)	△12,160	0	12,160	
	○多目的広場は、見島への観光客と島民の交流を通じて離島振興を図ることを目的に、市が政策的に支出する計画としている。 ○令和5年度は、ソフトボール場(無料)の利用はあったものの、シャワー室(有料)の利用がなかった。				
サービスの質の評価(利用者満足度調査結果等)	○利用者からの苦情もなく、概ね良好と判断される。				
課題と改善方策等	前年度までの改善方策に対する取組状況	○特記事項なし			
	現状の課題	○トイレおよび外灯等、一部施設に修繕が必要な箇所がある。 ○利用者が安心して利用できるよう、施設の維持管理を行う。			
	改善方策	○定期的なメンテナンスに努めるとともに、適切な修繕を行っていく。			
数値目標(利用者数)	年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
	目標値(人)	30	30	30	30
労働条件・環境	■適 □否	否の場合の内容と対応			

指定管理施設名		維新百年記念公園				
指定管理者名		一般財団法人山口県施設管理財団				
指 定 期 間		令和2年4月1日 ～ 令和7年3月31日				
管理業務の実施状況	指定管理業務	管理業務		運營業務		
	業 務 内 容	○公園施設・整備の維持管理の実施		○施設の利用、受付、料金徴収、自主企画事業の実施		
	実 施 状 況	○事業計画どおり実施されている。		○事業計画どおり実施されている。		
	未履行の有無	無		無		
施設利用実績		利用者数(人)	令和4年度	496,122		
			令和5年度	559,162		
			増 減	63,040		
		実績の分析	○開園50周年を契機とした各種取組の成果に加え、新型コロナウイルス感染症の5類感染症移行もあり、利用人数、件数、利用料収入いずれも前年度に比べ増加している。			
利用促進に向けた新たな取組		○開園50周年を契機とした記念行事及び写真コンテストの開催、公園写真集の発刊、公園ロゴマークの作成等、県民へ広く周知活動を行った。 ○関係機関への戸別訪問をはじめ、ケーブルテレビやレノファ山ロユーチューブへの出演など、多様な媒体を活用した情報発信を充実・強化させた。				
収 支 結 果		科 目	予算額(円)	決算額(円)	差 異(円)	
		収 入	362,146,000	341,445,559	△20,700,441	
		支 出	366,746,000	344,922,099	△21,823,901	
		差引(収入-支出)	△4,600,000	△3,476,540	1,123,460	
		○新型コロナウイルス感染症の影響が緩和されたことや、施設利用促進を図る各種取組により、利用料収入が増加したものの、将来へ向けた設備補修や器具更新等に積極的投資を行った結果、トータルでは若干の赤字となった。				
サービスの質の評価 (利用者満足度調査結果等)		○自主企画事業の参加者や一般利用者からの意見によると、施設の管理・運営の両面で評価を得ている。				
課題と改善方策等	前年度までの改善方策に対する取組状況	○利用者アンケートや各関係団体からの要望について積極的に聞き取りを行い、利用者のニーズを把握している。 ○園内巡視、点検等で把握した要修繕箇所については速やかに対応し、利用者の安全確保に努めている。				
	現状の課題	○開園から50年が経過し各施設が老朽化する中で、快適な施設づくりを通じて利用者の満足度を向上させるために、公園施設の修繕・改修を順次行う必要がある。 ○事故に発展しそうな案件を未然に洗い出し対応することで、安全な環境を維持していくことが課題である。				
	改善方策	○利用者や各関係団体からの要望を聞き取ることで利用者ニーズを的確に把握するとともに、設備更新が必要な部分を精査し、対応していく。 ○危険と思われる箇所の早期発見に努め、利用者の安全確保に努める。				
数 値 目 標 (利用者数)		年 度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
		目標値(人)	559,000	—	—	—
労働条件・環境		■適 □否	否の場合の内容と対応			

指定管理施設名	片添ヶ浜海浜公園				
指定管理者名	周防大島町				
指 定 期 間	令和3年4月1日 ～ 令和8年3月31日				
管理業務の実施状況	指定管理業務	管理業務		運營業務	
	業 務 内 容	○公園施設・整備の維持管理の実施		○施設の利用、受付、料金徴収、自主企画事業の実施	
	実 施 状 況	○事業計画どおり実施されている。		○おおむね事業計画どおり実施されている。	
	未履行の有無	無		無	
施設利用実績	利用者数(人)	令和4年度	22,558		
		令和5年度	21,108		
		増 減	△1,450		
	実績の分析	○令和5年度は、コロナ禍を経て加熱したキャンプブームが落ち着いたことや、繁忙期の長雨等天候の影響もあり、利用者数が減少した。			
利用促進に向けた新たな取組	○ブログだけではなく Instagram や Facebook も活用し、イベント情報の告知、周辺施設の情報やストーリーズ配信を行うなど、露出や認知度の拡大とリピーターの増加を目指している。				
収 支 結 果	科 目	予算額(円)	決算額(円)	差 異(円)	
	収 入	80,115,000	78,970,479	△1,144,521	
	支 出	80,115,000	79,223,479	△891,521	
	差引(収入-支出)	0	△253,000	△253,000	
	○経費節減に努め、適正に運用しているが、6月豪雨により公園の一部が被災し、復旧後の施設の点検調査等の期間は利用できない施設があったことなどから、収支は赤字となった。				
サービスの質の評価 (利用者満足度調査結果等)	○利用者の自由意見ノート、インターネット予約サイトのレビュー欄、管理人ブログ及びメール等に寄せられる意見等の結果からは、利用者満足度は高く、一定の評価を得ている。				
課題と改善方策等	前年度までの改善方策に対する取組状況	○危険と思われる個所の早期発見に努め、利用者の安全確保と利便性の向上に努めた。 ○利用者と積極的にコミュニケーションを図り、利用者ニーズの把握やキャンプ利用におけるトレンド等の情報収集に努めた。			
	現状の課題	○キャンプブームの落ち着きにより減少した利用者数の回復。 ○これまでどおりの安全な環境の維持。 ○冬場のキャンプ利用者の増加に伴うニーズ(給湯器や温水便座等)への対応。			
	改善方策	○周辺施設や町の関係課と連携を図りながら、地域の賑わい創出や利用促進に取り組む。 ○施設内をこまめに見回することで、安心して利用できる環境づくりや危険個所の早期発見に努める。 ○利用者ニーズやトレンドを的確に把握し、対応可能なものは順次実施していく。			
数 値 目 標 (利用者数)	年 度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
	目標値(人)	33,000	36,000	—	—
労働条件・環境	■適 □否	否の場合の内容と対応			

指定管理施設名		萩ウェルネスパーク			
指定管理者名		萩市			
指 定 期 間		令和3年4月1日 ～ 令和8年3月31日			
管理業務の実施状況	指定管理業務	管理業務		運營業務	
	業 務 内 容	○公園施設・整備の維持管理の実施		○施設の利用、受付、料金徴収、自主企画事業の実施	
	実 施 状 況	○事業計画どおり実施されている。		○事業計画どおり実施されている。	
	未履行の有無	無		無	
施設利用実績	利用者数(人)	令和4年度	45,842		
		令和5年度	53,083		
		増 減	7,241		
	実績の分析	○新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行したことを受けて、大会・催事が再開されるとともに、一般の施設利用も増えてきている。			
利用促進に向けた新たな取組	○新型コロナウイルス感染症は5類に移行したが、消毒等の対応を継続して行い、利用者の安心・安全に配慮した。 ○併せて、利用促進に向けた施策の推進や情報発信等の充実を図った。				
収 支 結 果	科 目	予算額(円)	決算額(円)	差 異(円)	
	収 入	62,600,671	57,923,409	△4,677,262	
	支 出	62,600,671	57,923,409	△4,677,262	
	差引(収入-支出)	0	0	0	
	○施設の経年劣化により維持管理費の圧縮が難しい状況にあるため、収入の確保及び経費節減に継続して取り組んでいる。 ○利用者向けに市独自の減免を行っており、そのための市負担金を収入に計上している。				
サービスの質の評価 (利用者満足度調査結果等)	○施設利用者からの聞き取りを行っており、公園の管理運営について概ね好評を得ている。				
課題と改善方策等	前年度までの改善方策に対する取組状況	○利用者懇話会等により利用者のニーズの把握やコミュニケーションを図るよう努めた。 ○園内巡視、点検等で把握した要修繕箇所について、小規模なものは損傷が進行する前に速やかに対応するとともに、記録を残し適切に管理している。			
	現状の課題	○スポーツでの施設利用が大半を占め、主に休日等の大会での利用が多いことから、大会等の利用のみならず、幅広い年齢層を対象としたスポーツ推進や健康増進が可能な施設の活用方法を検討する必要がある。 ○施設完成から16年が経過しており、施設各所で経年劣化に対応する必要がある。			
	改善方策	○市の各関係部署と連携を図り、スポーツ分野に留まらない、幅広い分野での利用方法を検討していく。 ○危険と思われる箇所の早期発見に努め、利用者の安全確保に努める。			
数 値 目 標 (利用者数)	年 度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
	目標値(人)	52,000	55,000	—	—
労働条件・環境	■適 □否	否の場合の内容と対応			

指定管理施設名	山口きらら博記念公園				
指定管理者名	きらら未来創発パートナーズ				
指 定 期 間	平成31年4月1日 ～ 令和6年3月31日				
管理業務の実施状況	指定管理業務	管理業務		運營業務	
	業 務 内 容	○公園施設・設備の維持管理の実施		○施設の利用、受付、料金徴収、自主企画事業の実施	
	実 施 状 況	○事業計画どおり実施されている。		○事業計画どおり実施されている。	
	未履行の有無	無		無	
施設利用実績	利用者数(人)	令和4年度	296,077		
		令和5年度	1,003,238		
		増 減	707,161		
	実績の分析	○大規模イベントや指定管理者による自主事業を多数開催したことにより、令和5年度の利用者数は100万人を突破し、新型コロナウイルス感染症拡大前の利用者水準を上回った。			
利用促進に向けた新たな取組	○公園のイベント情報等をより積極的に発信するため、ホームページのリニューアルを行った。 ○自主事業について、なぞときイベントや夜間のシャボン玉イベント等、初開催となるイベントを数多く実施し、新たな利用者の獲得に努めた。				
収 支 結 果	科 目	予算額(円)	決算額(円)	差 異(円)	
	収 入	557,734,000	570,308,648	12,574,648	
	支 出	557,734,000	573,174,295	15,440,295	
	差引(収入-支出)	0	△2,865,647	△2,865,647	
	○公園利用者の増加により、利用料収入は増加したものの、人件費高騰等の影響を受け赤字となった。				
サービスの質の評価 (利用者満足度調査結果等)	○職員に対し顧客満足に関する研修を実施する等、更なるサービスの向上に努めた。				
課題と改善方策等	前年度までの改善方策に対する取組状況	○スポーツ以外のイベント・自主事業を多数開催し、新規利用者数の獲得に努めた。			
	現状の課題	○多様化する利用者のニーズを的確に把握し、魅力ある自主事業を展開することで、公園利用者数の更なる増加を目指したい。			
	改善方策	○世間のトレンドにアンテナを張り、新たな自主事業を生み出し、更なる利用者数の増加を図っていく。			
数 値 目 標 (利用者数)	年 度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
	目標値(人)	800,000	—	—	—
労働条件・環境	■適 □否	否の場合の内容と対応			

指定管理施設名		周南流域下水道			
指定管理者名		総合設備管理株式会社			
指 定 期 間		令和3年4月1日 ～ 令和8年3月31日			
管理業務の実施状況	指定管理業務	管理業務			
	業 務 内 容	○周南流域下水道の管理に関する事務			
	実 施 状 況	○適切に管理・運営されている。			
	未履行の有無	無			
施設利用実績	利用者数(人)	令和4年度	—		
		令和5年度	—		
		増 減	—		
	実績の分析	○外部利用者なし			
利用促進に向けた新たな取組	○外部利用者なし				
収 支 結 果	科 目	予算額(円)	決算額(円)	差 異(円)	
	収 入	281,380,000	317,563,785	36,183,785	
	支 出	317,563,785	318,414,557	850,772	
	差引(収入-支出)	△36,183,785	△850,772	35,333,013	
	○材料費の増加等により、収入に比べて支出が超過する状況となったが、適切な施設維持管理を実施する中で経費の削減可能な部分の見直し・改善等を行い、引き続き円滑な施設の運営・管理体制の充実に努めていく。				
サービスの質の評価 (利用者満足度調査結果等)	○外部利用者なし				
課題と改善方策等	前年度までの改善方策に対する取組状況	○機器の更新や運転調整等による作業効率の向上及び電力使用量の抑制 ○凝集剤の変更による薬品代の削減			
	現状の課題	○収入に比べて支出が超過している状況であることから、管理業務を適切に実施しつつ、経費節減に努める必要がある。			
	改善方策	○省エネへの取組の更なる充実を図る。			
数 値 目 標 (利用者数)	年 度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
	目標値(人)	—	—	—	—
労働条件・環境	■適 □否	否の場合の内容と対応			

指定管理施設名		田布施川流域下水道			
指定管理者名		総合設備管理株式会社			
指 定 期 間		令和3年4月1日 ～ 令和8年3月31日			
管理業務の実施状況	指定管理業務	管理業務			
	業 務 内 容	○田布施川流域下水道の管理に関する事務			
	実 施 状 況	○適切に管理・運営されている。			
	未履行の有無	無			
施設利用実績	利用者数(人)	令和4年度	—		
		令和5年度	—		
		増 減	—		
	実績の分析	○外部利用者なし			
利用促進に向けた新たな取組	○外部利用者なし				
収 支 結 果	科 目	予算額(円)	決算額(円)	差 異(円)	
	収 入	93,577,000	102,668,481	9,091,481	
	支 出	102,668,481	106,371,151	3,702,670	
	差引(収入-支出)	△9,091,481	△3,702,670	5,388,811	
	○人件費の上昇等により、収入に比べて支出が超過する状況となったが、適切な施設維持管理を実施する中で経費の削減可能な部分の見直し・改善等を行い、引き続き円滑な施設の運営・管理体制の充実に努めていく。				
サービスの質の評価 (利用者満足度調査結果等)	○外部利用者なし				
課題と改善方策等	前年度までの改善方策に対する取組状況	○機器の更新や運転調整等による作業効率の向上及び電力使用量の抑制 ○凝集剤の変更による薬品代の削減			
	現状の課題	○収入に比べて支出が超過している状況であることから、管理業務を適切に実施しつつ、経費節減に努める必要がある。			
	改善方策	○省エネへの取組の更なる充実を図る。			
数 値 目 標 (利用者数)	年 度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
	目標値(人)	—	—	—	—
労働条件・環境	■適 □否	否の場合の内容と対応			

指定管理施設名		岩国港 新港運動公園			
指定管理者名		岩国市			
指 定 期 間		令和3年4月1日 ～ 令和8年3月31日			
管理業務の実施状況	指定管理業務	トイレ管理業務	植栽管理業務	自家用電気工作物保安業務	
	業 務 内 容	○トイレの清掃、トイレト トペーパーの補充、浄化 槽管理、汚泥処理	○公園内外の草刈、芝生刈 込、植栽の剪定業務	○定期的な電気工作物の点 検測定業務	
	実 施 状 況	○定期的に実施	○定期的に実施	○定期的に実施	
	未履行の有無	無	無	無	
施設利用実績	利用者数(人)	令和4年度	9,723		
		令和5年度	9,784		
		増 減	61		
	実績の分析	○前年度より利用者数が微増した。 ○コロナ禍による利用者減が多少解消されたが、猛暑日が続いたことにより、夏季の利用者が減少しており、大幅な増加とはならなかった。			
利用促進に向けた新たな取組	○特記事項なし				
収 支 結 果	科 目	予算額(円)	決算額(円)	差 異(円)	
	収 入	210,000	251,320	41,320	
	支 出	3,841,000	3,841,000	0	
	差引(収入-支出)	△3,631,000	△3,589,680	41,320	
	○夜間利用者の増加に伴い、夜間照明料金の収入が増加した。				
サービスの質の評価 (利用者満足度調査結果等)	○安全に施設を利用できるよう、施設の維持管理に努めている。				
課題と改善方策等	前年度までの改善方策に対する取組状況	○施設の定期的な清掃や巡回を行っている。			
	現状の課題	○施設そのものが老朽化している。			
	改善方策	○計画的に予算計上を行う。			
数 値 目 標 (利用者数)	年 度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
	目標値(人)	—	—	—	—
労働条件・環境	■適 □否	否の場合の内容と対応			

指定管理施設名		室津港 室津港湾施設				
指定管理者名		上関町				
指 定 期 間		令和3年4月1日 ～ 令和8年3月31日				
管理業務の実施状況	指定管理業務	美化清掃・維持管理業務		利用調整・使用許可窓口業務		
	業 務 内 容	○清掃、保守点検、補修等		○利用の問い合わせ対応、利用届の受付等		
	実 施 状 況	○事業計画どおり実施されている。		○事業計画どおり実施されている。		
	未履行の有無	無		無		
施設利用実績		利用者数(人)	令和4年度	0		
			令和5年度	9,255		
			増 減	9,255		
		実績の分析	○新型コロナウイルス感染症が5類に移行したことにより、町主催事業が実施された。			
利用促進に向けた新たな取組		○特記事項なし				
収 支 結 果		科 目	予算額(円)	決算額(円)	差 異(円)	
		収 入	0	0	0	
		支 出	543,000	386,793	△156,207	
		差引(収入-支出)	△543,000	△386,793	156,207	
		○芝生の維持管理業務が想定した予算より安価となったため、支出減となった。				
サービスの質の評価 (利用者満足度調査結果等)		○安全に施設を利用できるよう、施設の維持管理に努めている。				
課題と改善方策等	前年度までの改善方策に対する取組状況	○特記事項なし				
	現状の課題	○特記事項なし				
	改善方策	○特記事項なし				
数 値 目 標 (利用者数)		年 度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
		目標値(人)	10,000	10,000	10,000	10,000
労働条件・環境		■適 □否	否の場合の内容と対応			

指定管理施設名		平生港 水場地区物揚場等				
指定管理者名		平生町				
指 定 期 間		令和3年4月1日 ～ 令和8年3月31日				
管理業務の実施状況	指定管理業務	美化清掃維持補修業務	利用調整業務	許可手続き業務		
	業 務 内 容	○施設の美化清掃及び維持補修業務	○施設の利用調整業務	○施設の使用許可手続きに関する窓口業務		
	実 施 状 況	○週2回のトイレ清掃 ○年2回の草刈り	○係留の利用調整について、必要に応じ係留指導等を行っている。	○年度1回施設利用許可手続き（許可証交付・ステッカー配布）を行っている。		
	未履行の有無	無	無	無		
施設利用実績		利用者数(人)	令和4年度	61		
			令和5年度	59		
			増 減	△2		
		実績の分析	○利用廃止件数が新規申込件数を上回った。			
利用促進に向けた新たな取組		○特記事項なし				
収 支 結 果		科 目	予算額(円)	決算額(円)	差 異(円)	
		収 入	2,880,000	2,744,000	△136,000	
		支 出	2,880,000	3,185,705	305,705	
		差引(収入-支出)	0	△441,705	△441,705	
		○施設の維持管理経費の節減に努めたが、物価高騰等の影響もあり収入より支出が上回る結果となったため、引き続き、施設の維持管理経費の節減に努める。				
サービスの質の評価 (利用者満足度調査結果等)		○安全に施設を利用できるよう、施設の維持管理に努めている。				
課題と改善方策等	前年度までの改善方策に対する取組状況	○特記事項なし				
	現状の課題	○特記事項なし				
	改善方策	○特記事項なし				
数 値 目 標 (利用者数)		年 度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
		目標値(人)	—	—	—	—
労働条件・環境		■適 □否	否の場合の内容と対応			

指定管理施設名		徳山下松港 はなぐり緑地				
指定管理者名		下松市				
指 定 期 間		令和3年4月1日 ～ 令和8年3月31日				
管理業務の実施状況	指定管理業務	維持管理業務		使用許可業務		
	業務内容	○樹木及び芝生の維持管理 ○建築物・工作物等の維持管理 ○はなぐり緑地の利用の案内及び指導 ○はなぐり緑地の普及啓発		○はなぐり緑地の使用許可・変更許可 ○国・地方公共団体の使用の協議 ○使用の中止・廃止の届出の受理		
	実施状況	○施設内の清掃、草刈、パトロールを実施		○使用許可件数 5件 ○その他の申請 0件		
	未履行の有無	無		無		
施設利用実績		利用者数(人)		令和4年度	1,474	
				令和5年度	1,061	
				増 減	△413	
		実績の分析		○海水浴場併設期間中における親水広場利用者数を記載している。 ○令和5年度は、台風接近に伴い海水浴場を2日間閉鎖するなど、天候不良の影響によって、利用者が減少した。		
利用促進に向けた新たな取組		○特記事項なし				
収 支 結 果		科 目	予算額(円)	決算額(円)	差 異(円)	
		収 入	0	0	0	
		支 出	502,857	502,857	0	
		差引(収入-支出)	△502,857	△502,857	0	
		○特記事項なし				
サービスの質の評価 (利用者満足度調査結果等)		○年間を通じて、散歩客や釣り客など、一定数の来訪者があり、市の行楽地の一つとして定着している。				
課題と改善方策等	前年度までの改善方策に対する取組状況	○えさやり禁止等の看板設置を継続して実施している。				
	現状の課題	○野良猫の繁殖や餌やりマナー等について、対応に苦慮している。				
	改善方策	○えさやり禁止等の看板設置。				
数 値 目 標 (利用者数)		年 度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
		目標値(人)	2,000	2,000	2,000	2,000
労働条件・環境		■適 □否	否の場合の内容と対応			

指定管理施設名		徳山下松港 下松埠頭公園				
指定管理者名		下松市				
指 定 期 間		令和3年4月1日 ～ 令和8年3月31日				
管理業務の実施状況	指定管理業務	維持管理業務		浄化槽維持管理業務		
	業 務 内 容	○下松埠頭公園の維持管理		○下松埠頭公園の浄化槽の維持管理		
	実 施 状 況	○下松グラウンドゴルフ協会に業務を委託（公園内施設の清掃及び除草）		○巡快サービス興業有限会社に業務を委託（浄化槽の維持管理）		
	未履行の有無	無		無		
施設利用実績		利用者数(人)	令和4年度	5,482		
			令和5年度	4,685		
			増 減	△797		
		実績の分析	○高齢化による利用者の減少や高齢化による移動手手段の確保の困難、夏季の猛暑による利用見合わせなどにより、利用者が減少した。			
利用促進に向けた新たな取組		○特記事項なし				
収 支 結 果		科 目	予算額(円)	決算額(円)	差 異(円)	
		収 入	0	0	0	
		支 出	691,002	691,002	0	
		差引(収入-支出)	△691,002	△691,002	0	
		○特記事項なし				
サービスの質の評価 (利用者満足度調査結果等)		○安全に施設を利用できるよう、施設の維持管理に努めている。				
課題と改善方策等	前年度までの改善方策に対する取組状況	○特記事項なし				
	現状の課題	○特記事項なし				
	改善方策	○特記事項なし				
数 値 目 標 (利用者数)		年 度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
		目標値(人)	6,000	6,000	—	—
労働条件・環境		■適 □否	否の場合の内容と対応			

指定管理施設名		徳山下松港 洲鼻船だまり				
指定管理者名		下松市				
指 定 期 間		令和2年4月1日 ～ 令和7年3月31日				
管理業務の実施状況	指定管理業務	維持管理業務		係留施設等使用許可業務		
	業 務 内 容	○施設内の清掃及び草刈り、照明設備及び浮標灯の電球交換等		○山口県港湾施設管理条例に基づき、係留施設の使用許可等を行う（特殊使用許可は除く）		
	実 施 状 況	○定期的実施		○適正に実施		
	未履行の有無	無		無		
施設利用実績		利用者数(人)	令和4年度	63		
			令和5年度	62		
			増 減	△1		
		実績の分析	○廃船を理由に利用者が僅かに減少した。			
利用促進に向けた新たな取組		○施設に空きが発生次第、随時、係船の公募を進めた。				
収 支 結 果		科 目	予算額(円)	決算額(円)	差 異(円)	
		収 入	1,488,000	1,413,600	△74,400	
		支 出	1,488,000	692,000	△796,000	
		差引(収入-支出)	0	721,600	721,600	
		○光熱水費など、施設の維持管理経費の節減に努めた。				
サービスの質の評価 (利用者満足度調査結果等)		○協議会を設置し、利用者の要望等を吸い上げ、サービス向上に努めた。				
課題と改善方策等	前年度までの改善方策に対する取組状況	○年度初めに代表者会議を実施し、利用者の意見を集約することで、より良いサービスの提供を図っている。 ○適宜、窓口及び電話相談対応を行うことで、迅速かつ適正な施設運営を行っている。				
	現状の課題	○野積場等の施設の有効活用を図る。				
	改善方策	○地元関係者と協議する。				
数 値 目 標 (利用者数)		年 度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
		目標値(人)	101	101	101	101
労働条件・環境		■適 □否	否の場合の内容と対応			

指定管理施設名		徳山下松港 晴海緑地公園				
指定管理者名		周南市				
指 定 期 間		令和3年4月1日 ～ 令和8年3月31日				
管理業務の実施状況	指定管理業務	運営業務		維持管理業務		
	業 務 内 容	○使用許可に係る業務		○公園内施設の維持管理、利用の案内及び指導に関する業務		
	実 施 状 況	○山口県港湾施設管理条例により知事が許可した行為は令和5年度実績で2件であり、利用者数は延べ8,600人であった。		○トイレ・芝生等の管理はシルバー人材センター等に業務を依頼し、全体の管理は職員が定期的にチェックを行っている。		
	未履行の有無	無		無		
施設利用実績		利用者数(人)	令和4年度	20,050		
			令和5年度	8,600		
			増 減	△11,450		
		実績の分析	○猛暑などの影響から、イベントの規模の縮減開催や開催の見送りにより利用者数が減少した。			
利用促進に向けた新たな取組		○工場夜景のPRなど、周南市の魅力スポットとしての認知拡大を推進した。				
収 支 結 果		科 目	予算額(円)	決算額(円)	差 異(円)	
		収 入	0	0	0	
		支 出	7,233,835	7,233,835	0	
		差引(収入-支出)	△7,233,835	△7,233,835	0	
		○光熱水費など、施設の維持管理費の削減に努めた。				
サービスの質の評価 (利用者満足度調査結果等)		○適切な維持管理により、市民が利用しやすい公園の環境を整えていると考える。				
課題と改善方策等	前年度までの改善方策に対する取組状況	○職員が定期的に現場視察を行っている。				
	現 状 の 課 題	○公園利用者以外の駐車が多い。 ○ゴミの不法投棄やトイレの利用マナーが悪い事例がある。 ○施設の老朽化が進行している。				
	改 善 方 策	○掲示物を設置して利用方法等の注意を促している。 ○周南港湾管理事務所及び関連団体と密な連絡をとり、適正な施設の維持に務めている。				
数 値 目 標 (利用者数)		年 度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
		目標値(人)	—	—	—	—
労働条件・環境		■適 □否	否の場合の内容と対応			

指定管理施設名		徳山下松港 櫛ヶ浜船だまり			
指定管理者名		周南市			
指 定 期 間		令和3年4月1日 ～ 令和8年3月31日			
管理業務の実施状況	指定管理業務	運營業務		維持管理業務	
	業 務 内 容	○施設の利用に関すること		○施設の美化・清掃及び維持・補修に関すること	
	実 施 状 況	○使用料は徴収していない。		○照明灯電気代を市が負担し、利用者を中心に美化清掃している。	
	未履行の有無	無		無	
施設利用実績	利用者数(人)	令和4年度	0		
		令和5年度	0		
		増 減	0		
	実績の分析	○地元漁協の利用が主である(利用者数に地元漁協を含めていない)。			
利用促進に向けた新たな取組	○使用許可基準に沿って、積極的に行為を認めた。				
収 支 結 果	科 目	予算額(円)	決算額(円)	差異(円)	
	収 入	0	0	0	
	支 出	874,732	874,732	0	
	差引(収入-支出)	△874,732	△874,732	0	
	○光熱水費など、施設の維持管理費の削減に努めた。				
サービスの質の評価 (利用者満足度調査結果等)	○問題はなく、適切に利用が図られていると考える。				
課題と改善方策等	前年度までの改善方策に対する取組状況	○櫛ヶ浜船だまりの機能を日常的に良好な状態に維持し、安全かつ効率的な管理や異常時の危機管理体制の整備を行うことにより、小型船舶の円滑な入出港と陸揚げ機能の強化及び係留の安全性等の設置目的に従った管理業務に努めた。			
	現状の課題	○現状に問題点はなく、管理・運営が適切に行われている。			
	改善方策	○設置目的に従った管理業務に努める。			
数 値 目 標 (利用者数)	年 度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
	目標値(人)	—	—	—	—
労働条件・環境	■適 □否	否の場合の内容と対応			

指定管理施設名		徳山下松港 築港緑地				
指定管理者名		周南市				
指 定 期 間		令和4年2月1日 ～ 令和8年3月31日				
管理業務の実施状況	指定管理業務	運営業務		維持管理業務		
	業 務 内 容	○使用許可に係る業務		○緑地内施設の維持管理、利用の案内及び指導に関する業務		
	実 施 状 況	○山口県港湾施設管理条例により知事が許可した行為は令和5年度実績で0件であった。		○芝生等の管理はシルバー人材センターに業務を依頼し、全体の管理は職員が不定期的にチェックを行っている。		
	未履行の有無	無		無		
施設利用実績		利用者数(人)	令和4年度	400		
			令和5年度	0		
			増 減	△400		
		実績の分析	○昨年度は徳山下松港開港100周年のイベントがあったが、今年度は猛暑などの影響から、イベントの開催の見送りにより利用者数が減少した。			
利用促進に向けた新たな取組		○工場夜景のPRなど、周南市の魅力スポットとしての認知拡大を推進した。				
収 支 結 果		科 目	予算額(円)	決算額(円)	差 異(円)	
		収 入	0	0	0	
		支 出	536,012	536,012	0	
		差引(収入-支出)	△536,012	△536,012	0	
		○光熱水費など、施設の維持管理費の削減に努めた。				
サービスの質の評価 (利用者満足度調査結果等)		○新しい施設と適切な維持管理により、市民が利用しやすい環境を整えていると考える。				
課題と改善方策等	前年度までの改善方策に対する取組状況	○県において、引き続き、施設整備工事が行われた。				
	現状の課題	○駐車場等が工事継続中であり、周辺環境が整っていない。				
	改善方策	○施設整備の早期完了				
数 値 目 標 (利用者数)		年 度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
		目標値(人)	—	—	—	—
労働条件・環境		■適 □否	否の場合の内容と対応			

指定管理施設名		三田尻港 築地港湾施設				
指定管理者名		防府市				
指定期間		令和3年4月1日～令和8年3月31日				
管理業務の実施状況	指定管理業務	維持管理業務		運営業務		
	業務内容	○定期点検業務		○使用許可に係る業務		
	実施状況	○10/19、3/14の年2回実施		○再委託の承認を受けた山口県漁業協同組合が水産物卸売市場運営のため使用している。		
	未履行の有無	無		無		
施設利用実績		利用者数(人)	令和4年度	1,937		
			令和5年度	1,927		
			増減	△10		
		実績の分析	○漁業者の出漁日数及び天候によるもの。			
利用促進に向けた新たな取組		○特記事項なし				
収支結果		科目	予算額(円)	決算額(円)	差異(円)	
		収入	0	0	0	
		支出	74,282	74,282	0	
		差引(収入-支出)	△74,282	△74,282	0	
		○特記事項なし				
サービスの質の評価 (利用者満足度調査結果等)		○安全に施設を利用できるよう、施設の維持管理に努めている。				
課題と改善方策等	前年度までの改善方策に対する取組状況	○特記事項なし				
	現状の課題	○特記事項なし				
	改善方策	○特記事項なし				
数値目標 (利用者数)		年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
		目標値(人)	1,850	1,850	1,850	1,850
労働条件・環境		■適 □否	否の場合の内容と対応			

指定管理施設名		三田尻港 三田尻緑地公園			
指定管理者名		防府市			
指 定 期 間		令和3年4月1日 ～ 令和8年3月31日			
管理業務の実施状況	指定管理業務	維持管理業務		運営業務	
	業 務 内 容	○維持管理業務		○使用許可に係る業務	
	実 施 状 況	○芝刈、灌水、施肥、巡回点検等は山口県漁業協同組合へ委託し、その他管理は職員が実施。		○山口県港湾施設管理条例第7条第1項及び第2項の許可を行う。	
	未履行の有無	無		無	
施設利用実績	利用者数(人)	令和4年度	6,374		
		令和5年度	6,719		
		増 減	345		
	実績の分析	○インクルーシブ遊具を設置したことにより、来場者が増加したものと思われる。			
利用促進に向けた新たな取組	○設備、遊具の増設				
収 支 結 果	科 目	予算額(円)	決算額(円)	差異(円)	
	収 入	0	0	0	
	支 出	3,499,000	3,320,514	△178,486	
	差引(収入-支出)	△3,499,000	△3,320,514	178,486	
	○光熱水費など、施設の維持管理経費の節減に努めた。				
サービスの質の評価 (利用者満足度調査結果等)	○適切な管理により、来場者が利用しやすい環境を整えていると考えている。				
課題と改善方策等	前年度までの改善方策に対する取組状況	○特記事項なし			
	現状の課題	○特記事項なし			
	改善方策	○特記事項なし			
数 値 目 標 (利用者数)	年 度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
	目標値(人)	—	—	—	—
労働条件・環境	■適 □否	否の場合の内容と対応			

指定管理施設名		萩港 浜崎物揚場等				
指定管理者名		萩市				
指 定 期 間		令和3年4月1日 ～ 令和8年3月31日				
管理業務の実施状況	指定管理業務	維持管理業務		使用許可業務		
	業 務 内 容	○施設の維持管理 ○施設の利用 ○施設の清掃等の環境美化		○港湾施設の使用許可 ○届出の受理 ○使用許可等の取消等		
	実 施 状 況	○萩海運有限会社と管理委託協定を締結し、維持管理を実施している。		○萩海運有限会社に対し、使用許可している。		
	未履行の有無	無		無		
施設利用実績		利用回数(回)	令和4年度	2,137		
			令和5年度	2,114		
			増 減	△23		
		実績の分析	○利用回数が若干減少したが、大きな要因はない。			
利用促進に向けた新たな取組		○特記事項なし				
収 支 結 果		科 目	予算額(円)	決算額(円)	差 異(円)	
		収 入	2,940,000	2,959,600	19,600	
		支 出	2,940,000	2,472,055	△467,945	
		差引(収入-支出)	0	487,545	487,545	
		○光熱水費など、施設の維持管理経費の節減に努めた。				
サービスの質の評価 (利用者満足度調査結果等)		○安全に施設を利用できるよう、施設の維持管理に努めている。				
課題と改善方策等	前年度までの改善方策に対する取組状況	○特記事項なし				
	現状の課題	○特記事項なし				
	改善方策	○特記事項なし				
数 値 目 標 (利用回数)		年 度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
		目標値(回)	—	—	—	—
労働条件・環境		■適 □否	否の場合の内容と対応			

指定管理施設名		萩港 潟港緑地				
指定管理者名		萩市				
指 定 期 間		令和3年4月1日 ～ 令和8年3月31日				
管理業務の実施状況	指定管理業務	維持管理業務		使用許可業務		
	業 務 内 容	○樹木及び芝生の維持管理 ○建築物・工作物の維持管理 ○緑地の利用の案内及び緑地の普及啓発		○緑地の使用許可 ○国の機関等の使用許可に関する協議等 ○使用の中止・廃止の届出の受理等 ○緑地の使用許可に関する条件付加 ○使用許可の取消等		
	実 施 状 況	○観光課職員の監督のもと、萩公共サービス株式会社に清掃業務等を委託して実施。 ○企画政策課職員の監督のもと、有限会社ミヤモトに浄化槽維持管理業務を委託して実施。		○企画政策課職員が萩土木建築事務所と連絡を取り実施。		
	未履行の有無	無		無		
施設利用実績		利用者数(人)	令和4年度	0		
			令和5年度	0		
		増 減	0			
実績の分析		○本施設は、許可を必要としない使用を中心とした施設であり、過去に実績のあったイベント使用についても会場を変更されているため、実績がなかったもの。				
利用促進に向けた新たな取組		○萩市公式ホームページや市民便利帳への掲載により、施設利用の促進を図っている。				
収 支 結 果		科 目	予算額(円)	決算額(円)	差 異(円)	
		収 入	544,000	465,301	△78,699	
		支 出	2,786,000	2,085,463	△700,537	
		差引(収入-支出)	△2,242,000	△1,620,162	621,838	
		○電気料金が想定より低額となり、予算額に対して支出額が少なくなった。				
サービスの質の評価 (利用者満足度調査結果等)		○安全に施設を利用できるよう、施設の維持管理に努めている。				
課題と改善方策等	前年度までの改善方策に対する取組状況	○年2回の定期点検を行い、不具合箇所等の早期発見に努めた。				
	現状の課題	○施設の老朽化が進んでいる。				
	改善方策	○定期点検を行い、不具合箇所等の早期発見に努めるとともに、必要に応じて、施設の長寿命化を図る。				
数 値 目 標 (利用者数)		年 度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
		目標値(人)	—	—	—	—
労働条件・環境		■適 □否	否の場合の内容と対応			

指定管理施設名		萩港 潟港施設			
指定管理者名		株式会社マリーナ萩			
指 定 期 間		令和3年4月1日 ～ 令和8年3月31日			
管理業務の実施状況	指定管理業務	船舶保管業務		給油業務	
	業 務 内 容	○船舶の保管・管理		○船舶の給油	
	実 施 状 況	○適切に管理されている		○適切に管理されている	
	未履行の有無	無		無	
施設利用実績	利用艇数(艇)	令和4年度	69		
		令和5年度	72		
		増 減	3		
	実績の分析	○船舶保管数が3艇増加した。			
利用促進に向けた新たな取組	○ホームページ等を利用し、レンタルボート利用者などの新規顧客獲得に向けたPRを実施した。				
収 支 結 果	科 目	予算額(円)	決算額(円)	差異(円)	
	収 入	34,913,000	38,180,550	3,267,550	
	支 出	33,721,158	34,709,924	988,766	
	差引(収入-支出)	1,191,842	3,470,626	2,278,784	
	○光熱水費など、施設の維持管理経費の節減に努めた。				
サービスの質の評価 (利用者満足度調査結果等)	○安全に施設を利用できるよう、施設の維持管理に努めている。				
課題と改善方策等	前年度までの改善方策に対する取組状況	○フェンスの一部について、取替工事を実施した。			
	現状の課題	○マリントラベリフト(船舶揚降リフト)のワイヤー交換及び同設備のラジエーターの修繕 ○施設内舗装面の陥没箇所等の補修 ○構内照明の老朽化			
	改善方策	○施設の状況を踏まえ、適切に対応する。			
数 値 目 標 (利用艇数)	年 度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
	目標値(艇)	72	73	74	75
労働条件・環境	■適 □否	否の場合の内容と対応			

指定管理施設名	県営住宅等		
指定管理者名	一般財団法人山口県施設管理財団		
指定期間	令和2年4月1日～令和7年3月31日		
管理業務の実施状況	指定管理業務	入居関係業務	使用関係業務
	業務内容	○入居者募集事務、抽選事務、資格審査補助事務、入居決定補助事務	○収入調査補助事務、家賃決定補助事務、家賃減免補助事務 ○家賃収納事務、滞納家賃の督促・収納事務 ○入居者の異動等補助事務、用途変更等補助事務 ○目的外使用補助事務、住民活動支援事務
	実施状況	○新築募集及び年4回の定期空家募集を行い、抽選により決定した仮当選者に対し入居資格審査の補助事務を行った。 ○抽選後、定期募集で応募の無かった住戸については、再度募集を行った。	○収入調査、家賃決定、家賃減免決定、入居承認及び同居承認等の補助事務を行った。 ○家賃の収納に関し、口座振替手続き、納入通知書の送付、現金の収納を行った。 ○滞納家賃の督促については、文書催告に加え、電話や滞納者宅の訪問により、納付指導を行った。 ○令和5年6月30日大雨被災者の県住受入を行った。 ○地域活動促進事業については、入居者の要請に応えるべくアンケートを実施し、要望物品を支給した。
	未履行の有無	無	無
管理業務の実施状況	指定管理業務	明渡し等関係業務	保守点検・修繕業務 駐車場の管理関係業務
	業務内容	○明渡し・敷金返還補助事務	○県営住宅・共同施設の保守点検事務及び修繕事務 ○集会所等の管理事務
	実施状況	○退去に伴う明渡し検査や敷金返還に係る補助事務を行った。 ○長期滞納者・高額所得者に対し明渡し請求の補助事務を行った。	○エレベーター、合併処理浄化槽及び消防設備等の保守点検を各期間内に実施した。 ○緊急を要する修繕については、夜間・休日を問わず速やかに対応した。 ○経年劣化や性能低下の状況を調査し、計画的に修繕業務を実施した。
	未履行の有無	無	無
管理業務の実施状況	指定管理業務	建替事業関係業務	管理人関係業務 電算処理関係業務
	業務内容	○入居者説明会の補助事務、仮住居の提供事務	○管理人との連絡調整、管理人会議の開催
	実施状況	○対象者への意向確認アンケートを行い、入居説明会の開催準備や部屋決め説明会を開催するとともに、滞りなく転居できるように移転時期調整を行った。	○管理人の委嘱・解職の補助事務を行った。 ○新型コロナウイルスの感染に留意しながら管理人会議を実施し、管理に係わる意見や要望等を聴取し連絡調整を図った。
	未履行の有無	無	無

施設利用実績	管理戸数（戸）	令和4年度	12,869		
		令和5年度	12,814		
		増 減	△55		
実績の分析		○管理戸数は、建物老朽化による計画的建替を実施しているため、単年度では増減が生じる。			
利用促進に向けた新たな取組		<p>○新築や空家募集の情報をインターネット経由で提供しており、窓口でも要請に応じて代表的な間取りを提供し、物件内容を分かりやすく説明するとともに、既存入居者には、提出用書類を掲示した。</p> <p>○入居資格審査は、一応の期間及び時間帯はあるが、応募者に応じてフレキシブルに変更し、実施した。</p> <p>○連帯保証人を2名から1名に減じ、自然人の連帯保証人が立たない場合には、高齢者住宅財団による機関保証が利用できることを説明した。</p>			
収 支 結 果	科 目	予算額（円）	決算額（円）	差 異（円）	
	収 入	1,146,129,000	1,146,129,000	0	
	支 出	1,146,129,000	1,144,263,822	△1,865,178	
	差引（収入－支出）	0	1,865,178	1,865,178	
○県営住宅等の管理業務において、適正かつ効率的に事業執行した。					
サービスの質の評価 (利用者満足度調査結果等)		<p>○県下全域の県営住宅管理人に対し、令和5年12月に管理業務の評価についてアンケートを実施した（回答率63.1%、回答数332）。</p> <p>○5段階評価のうち、「あまり良くない」、「良くない」との回答は合わせて1.8%であり、目標の10%を下回った。</p>			
課題と改善方策等	前年度までの改善方策に対する取組状況	<p>○インターネットによる団地の詳細情報や募集情報及び抽選結果情報の提供を行うとともに、入居者向けに提出用書類を掲示した。</p> <p>○定期募集の抽選後の落選者・補欠者に、入居希望者の救済措置として再募集を実施した。</p> <p>○専任管理人に対し、家賃算定等の業務研修を統一的に実施した。</p> <p>○複数の職員による家賃減免や収入報告書の審査を徹底した。</p>			
	現状の課題	<p>○応募者が減ってきており、入居戸数が減少している。</p> <p>○滞納退去者の家賃等の縮減が進まない状況にある。</p>			
	改善方策	<p>○ホームページの内容を充実し、よりの確で分かりやすい情報の提供に努める。</p> <p>○山口県債権管理条例に則り、適切な処置を行う。</p>			
数 値 目 標 (アンケート調査の総合評価)	年 度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
	目標値（%）	対応が不満足と回答した人の割合が10%以下	対応が不満足と回答した人の割合が10%以下	対応が不満足と回答した人の割合が10%以下	対応が不満足と回答した人の割合が10%以下
労働条件・環境	■適 □否	否の場合の内容と対応			

指定管理施設名	油谷青少年自然の家				
指定管理者名	株式会社F E E L				
指 定 期 間	令和3年4月1日 ～ 令和8年3月31日				
管理業務の実施状況	指定管理業務	運営に関する業務	使用に関する業務	建物管理に関する業務	
	業 務 内 容	○受入業務 ○自主事業 ○フィールドの整備及び研修プログラムの研究開発 ○地域との連携と支援ボランティアの育成等	○使用申請の受付・許可 ○入所者への食事などの必要なサービスの提供 ○事業にかかる広報等	○建築物保守管理 ○設備機器保守管理 ○清掃 ○物品管理 ○外構、植栽管理 ○環境衛生管理	
	実 施 状 況	<受入事業> ○研修団体と事前に研修内容を調整し、指導助言 <研究開発> ○従来あった焚火場の開発 ○マリンアクティビティ（シーカヤック・釣り体験等）のプログラム改良	<事業広報等> ○定期的な施設広報誌の発行 ○HP・SNSの更新 ○チラシを地域内外に掲示及び配布 ○地域の新聞社やケーブルTVの協力による自主事業等の広報活動	<建築物保守管理> ○ロビー等のワックス塗布 <外構、植栽管理> ○国道沿いからの植栽について職員による定期的な剪定作業 <環境衛生管理> ○職員による館内（トイレを含む）清掃	
	未履行の有無	無	無	無	
施設利用実績	利用者数（人）	令和4年度	24,019		
		令和5年度	28,630		
		増 減	4,611		
実績の分析	○新型コロナが5類に移行しスポーツチームや高等学校等の利用が増えた。 ○地域との連携を心掛け、学校にも出向き出前講座などを積極的に行ったことが、利用者の増加につながった。				
利用促進に向けた新たな取組	○従来あった焚火場をさらに改良し、火を利用した研修活動のプログラムを開発した。 ○施設に隣接している海を利用したマリンアクティビティ（シーカヤック・釣り体験等）のプログラムの開発及び改良に取り組んだ。				
収 支 結 果	科 目	予算額（円）	決算額（円）	差 異（円）	
	収 入	39,835,000	40,198,058	363,058	
	支 出	39,835,000	39,693,521	△141,479	
	差引（収入－支出）	0	504,537	504,537	
○節約を心掛けた経営や計画的な支出を行った。 ○収入がほぼ計画どおりであった。					
サービスの質の評価 （利用者満足度調査結果等）	<利用者アンケート実施結果（受入事業）> ○研修プログラム：良い 100.0%、やや良い 0.0%、やや悪い 0.0%、悪い 0.0% ○職員対応：良い 99.1%、やや良い 0.9%、やや悪い 0.0%、悪い 0.0% ○食事内容：良い 88.9%、やや良い 6.7%、やや悪い 4.4%、悪い 0.0% ○食堂対応：良い 95.6%、やや良い 2.2%、やや悪い 2.2%、悪い 0.0%				
課題と改善方策等	前年度までの改善方策に対する取組状況	○地元小学校や団体のイベント等に対して、人員の派遣や物品の貸出を行うなどをし、地域との連携を深めている。 ○「やまぐち体験活動ボランティア養成事業」を活用し、海での活動におけるボランティアの育成活動を行った。 ○地元消防署と連携し、消防訓練及び救急救命法などの講習を実施し、急病や事故の発生時に対応できる体制を構築した。			
	現状の課題	○研修プログラムのスキルアップ ○秋・冬における利用客の増加 ○新規団体客層の獲得			
	改善方策	○職員による営業 ○地域団体との連携強化 ○研修視察や利用客へのニーズ調査 ○フィールドを利用したプログラムの作成 ○情報発信の強化			
数 値 目 標 （利用者数）	年 度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
	目標値（人）	30,000	32,000	—	—
労働条件・環境	■適 □否	否の場合の内容と対応			

指定管理施設名		秋吉台青少年自然の家				
指定管理者名		公益財団法人山口県ひとつづくり財団				
指 定 期 間		令和3年4月1日 ～ 令和8年3月31日				
管理業務の実施状況	指定管理業務	運営に関する業務		使用に関する業務	維持管理に関する業務	
	業務内容	<ul style="list-style-type: none"> ○受入事業 ○自主事業 ○フィールドの整備及び研修プログラムの研究開発 ○地域との連携と支援ボランティアの育成等 		<ul style="list-style-type: none"> ○使用申請の受付、許可 ○利用料金の徴収 ○入所者への食事などの必要なサービスの提供 ○事業に係る広報等 	<ul style="list-style-type: none"> ○建築物保守管理 ○設備機器保守管理 ○清掃 ○物品管理 ○外構、植栽管理 ○環境衛生管理 	
	実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <地域との連携> ○地元農家からの畑の提供 ○山焼きに向けた火道切りの整備、夏季の草刈りなど ○近隣施設との連携強化 <支援ボランティアの育成> ○大学生ボランティアの活用と育成 		<ul style="list-style-type: none"> <事業広報等> ○HPの随時更新や報道機関・情報誌等へのチラシ配布 ○利用の手引きやリーフレットを学校や関係機関に配布 ○フェイスブックやインスタグラム等、SNSを活用した情報の提供 	<ul style="list-style-type: none"> <建築物保守管理> ○野外音楽場崩落部補修 ○浴室床補修 ○ロビー空調機新設 <設備機器保守管理> ○野外炊事場漏水復旧 ○業務用冷蔵・冷凍庫修理 ○ボイラー配線用遮断器取替 ○高圧進相コンデンサー更新 	
	未履行の有無	無		無	無	
施設利用実績		利用者数(人)		令和4年度	6,542	
				令和5年度	9,099	
				増 減	2,557	
		実績の分析		○新型コロナウイルス感染症の影響が若干あり、利用率、宿泊率、稼働率の全てにおいて目標値に達することができなかったが、回復傾向にある。		
利用促進に向けた新たな取組		<ul style="list-style-type: none"> ○自主事業等の内容の充実化やPR ○施設や活動内容を広く周知するため、HPを随時更新し、施設の取組を積極的に発信 ○フェイスブックやインスタグラム等のSNSの活用 				
収 支 結 果		科 目	予算額(円)	決算額(円)	差 異(円)	
		収 入	58,848,000	58,735,187	△112,813	
		支 出	58,848,000	55,395,257	△3,452,743	
		差引(収入-支出)	0	3,339,930	3,339,930	
		<ul style="list-style-type: none"> ○収入：利用料金収入について、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、予算額を達成することができなかった。 ○支出：事業運営や通常業務に要する経費など、できる限りの節減や効率的な運用を図り、適正な執行に努めた。 				
サービスの質の評価 (利用者満足度調査結果等)		<ul style="list-style-type: none"> <利用者アンケート実施結果(受入事業)> ○研修プログラム：良い 95.8%、やや良い 4.2%、やや悪い 0.0%、悪い 0.0% ○職員対応：良い 100.0%、やや良い 0.0%、やや悪い 0.0%、悪い 0.0% ○食事内容：良い 93.9%、やや良い 6.1%、やや悪い 0.0%、悪い 0.0% ○食堂対応：良い 97.0%、やや良い 3.0%、やや悪い 0.0%、悪い 0.0% 				
課題と改善方策等	前年度までの改善方策に対する取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ○秋吉台の自然を活かした新規自主事業の開拓・開発に努めた。 ○閑散期における近隣小学校での出前授業を実施した。 ○閑散期に実施可能な新規自主事業の開発に努めた。 				
	現状の課題	○受入施設として条件的な制約がある中での、12月以降の閑散期における利用団体の増加				
	改善方策	<ul style="list-style-type: none"> ○秋吉台の自然を活かした新規自主事業を開拓・開発する。 ○閑散期における近隣小学校での出前授業を実施する。 ○閑散期に実施可能な新規自主事業を開発する。 ○ロビーに空調機器を設置し、多目的な活動環境を整備する。 				
数 値 目 標 (利用者数)		年 度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
		目標値(人)	12,000	12,000	-	-
労働条件・環境		■適 □否	否の場合の内容と対応			

指定管理施設名		十種ヶ峰青少年自然の家				
指定管理者名		公益財団法人山口県ひとつくり財団				
指 定 期 間		令和3年4月1日 ～ 令和8年3月31日				
管理業務の実施状況	指定管理業務	運営に関する業務		使用に関する業務	維持管理に関する業務	
	業務内容	<ul style="list-style-type: none"> ○受入事業 ○自主事業 ○フィールドの整備及び研修プログラムの研究開発 ○地域との連携と支援ボランティアの育成等 		<ul style="list-style-type: none"> ○使用申請の受付、許可 ○利用料金の徴収 ○入所者への食事などの必要なサービスの提供 ○事業に係る広報等 	<ul style="list-style-type: none"> ○建築物保守管理 ○設備機器保守管理 ○清掃 ○物品管理 ○外構、植栽管理 ○環境衛生管理 	
	実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <フィールドの整備> ○幼児向け自然体験活動エリア「がみねの森」整備 <受入事業> ○利用団体のニーズに沿った安全で効果的な活動が行われるよう、利用団体事前研修会を実施 		<ul style="list-style-type: none"> <事業広報等> ○HPやSNSを活用した施設情報の発信 ○年3回の所報「十種ヶ峰だより」の発行・メール配信 ○自主事業の案内を過去の参加者や学校・公民館等の近隣施設等に送付・メール配信 	<ul style="list-style-type: none"> <建築物保守管理> ○プレハブ倉庫設置及びその他倉庫屋根改修 ○野外炊事場防風ネット設置 ○ロビー空調設備電源配線 <設備機器保守管理> ○森のチャレンジコースにおけるロープスコース業者による定期検査と補修工事 	
	未履行の有無	無		無	無	
施設利用実績		利用者数(人)		令和4年度	11,329	
				令和5年度	11,461	
				増 減	132	
		実績の分析		<ul style="list-style-type: none"> ○家族や少人数のグループ対象の自主事業を積極的に企画・実施し、前年度とほぼ同程度の使用状況となった。 ○大規模な集団への出前事業の増加により、利用延人数は、令和2年度以降最多となった。 		
利用促進に向けた新たな取組		<ul style="list-style-type: none"> ○県教委主催のサマーキャンプスクールが形を変え、本所利用がなくなったのを受け、3泊4日の移動キャンプを自主事業として実施した。 ○10月から食事代を値上げすることで、食事の質・量とも向上させた。 				
収 支 結 果		科 目	予算額(円)	決算額(円)	差 異(円)	
		収 入	65,358,000	68,031,508	2,673,508	
		支 出	65,358,000	66,181,332	823,332	
		差引(収入-支出)	0	1,850,176	1,850,176	
		○施設の経年劣化に伴う支出が多くなっているが、その他は概ね事業計画書に沿った執行状況である。				
サービスの質の評価 (利用者満足度調査結果等)		<ul style="list-style-type: none"> <利用者アンケート実施結果(受入事業)> ○研修プログラム：良い 96.7%、やや良い 3.3%、やや悪い 0.0%、悪い 0.0% ○職員対応：良い 100.0%、やや良い 0.0%、やや悪い 0.0%、悪い 0.0% ○食事内容：良い 87.5%、やや良い 8.9%、やや悪い 3.6%、悪い 0.0% ○食堂対応：良い 84.9%、やや良い 7.5%、やや悪い 7.5%、悪い 0.0% 				
課題と改善方策等	前年度までの改善方策に対する取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ○自然体験プログラムの自主事業や、家族や少人数でも気軽に利用できるようにプログラムの企画・実施 ○出前事業を広く周知するため、チラシを各学校等に配布 				
	現状の課題	<ul style="list-style-type: none"> ○12月以降の冬季利用者の確保 ○地域や県教委との連携の推進 ○施設の老朽化に対し、安心・安全な運用のための対策を実施 				
	改善方策	<ul style="list-style-type: none"> ○冬季利用者確保のため、本所の特色であるスキーや雪遊びを前面に出した魅力的な事業を充実化 ○令和5年度に形を変え、周防大島で実施された県教委主催のアドベンチャーキャンプが、令和6年度は十種ヶ峰周辺で実施される予定であり、より強い連携を模索 				
数 値 目 標 (利用者数)		年 度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
		目標値(人)	12,500	12,500	—	—
労働条件・環境		■適 □否	否の場合の内容と対応			

指定管理施設名	由宇青少年自然の家				
指定管理者名	公益財団法人山口県ひとつづくり財団				
指 定 期 間	令和3年4月1日 ～ 令和8年3月31日				
管理業務の実施状況	指定管理業務	運営に関する業務	使用に関する業務	維持管理に関する業務	
	業務内容	<ul style="list-style-type: none"> ○受入事業 ○自主事業 ○フィールドの整備及び研修プログラムの研究開発 ○地域との連携 	<ul style="list-style-type: none"> ○使用申請の受付、許可 ○利用料金の徴収 ○入所者への食事などの必要なサービスの提供 ○事業に係る広報等 	<ul style="list-style-type: none"> ○建築物保守管理 ○設備機器保守管理 ○清掃 ○物品管理 ○外構、植栽管理 ○環境衛生管理 	
	実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <フィールドの整備> ○ウォークラリーコースの点検・改修の実施 <地域との連携> ○岩国市・市教委・大学や地域と連携し、SDGsの視点を取り入れた活動を実施 ○地域の様々な分野で活躍している人材を招き、プログラム内容を向上 	<ul style="list-style-type: none"> <事業広報等> ○ホームページをきめ細かに更新し、利用者に必要な情報提供を適宜実施 ○Instagramを活用し、イベント情報、活動風景などの情報を積極的に発信 	<ul style="list-style-type: none"> <設備機器保守管理> ○昇降機・電気設備・空調設備等について、適切な定期点検等により安全を確認 <外構、植栽管理> ○倒木処理 ○草刈・除草・剪定等により緑樹を適切な状態で維持 	
	未履行の有無	無	無	無	
施設利用実績	利用者数(人)	令和4年度	17,516		
		令和5年度	26,896		
		増 減	9,380		
実績の分析	<ul style="list-style-type: none"> ○学校等の宿泊を伴う活動が再開され、延利用者人数は26,896人で、前年度より9,380人増加し、コロナ禍前の約8割程度まで回復した。 ○国際会議(G7サミット)関係者の利用を差し引くと24,264人で、前年度より6,748人増加し、コロナ禍前の約7割程度まで回復した状況である。 				
利用促進に向けた新たな取組	<ul style="list-style-type: none"> ○ホームページやフェイスブックに加えてInstagramを積極的に活用した。 ○利用者のニーズをアンケート等から把握し、やってみたい体験活動となるよう自主事業のプログラムの工夫改善を行った。 				
収 支 結 果	科 目	予算額(円)	決算額(円)	差 異(円)	
	収 入	107,957,000	110,627,921	2,670,921	
	支 出	107,957,000	100,990,593	△6,966,407	
	差引(収入-支出)	0	9,637,328	9,637,328	
	<ul style="list-style-type: none"> ○国際会議(G7サミット)関係者の利用により収入が増加した。 ○支出においては、事業運営や通常業務に要する経費など、できる限りの節減を継続し効率的な運用を図り、適正な執行に努めた。 				
サービスの質の評価 (利用者満足度調査結果等)	<ul style="list-style-type: none"> <利用者アンケート実施結果(受入事業)> ○研修プログラム：良い 97.5%、やや良い 2.5%、 やや悪い 0.0%、悪い 0.0% ○職員対応：良い 93.0%、やや良い 7.0%、 やや悪い 0.0%、悪い 0.0% ○食事内容：良い 79.8%、やや良い 17.3%、 やや悪い 1.9%、悪い 0.0% ○食堂対応：良い 89.4%、やや良い 8.7%、 やや悪い 1.9%、悪い 0.0% 				
課題と改善方策等	前年度までの改善方策に対する取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ○職員の資質向上・県教委の具体的事例が示された資料を活用し、テーマを変えながら職員研修を行った。 ○財団本部、県教委等が実施する職員研修に参加した職員は必ず復命を行った。 			
	現状の課題	<ul style="list-style-type: none"> ○施設設備の老朽化対策 ○災害防止対策と安心安全の確保 			
	改善方策	<ul style="list-style-type: none"> ○計画的な対策を講じるため、担当部局と情報共有を図り優先順位をつけ、整備を推進する。 ○安全点検の確実な実施の徹底や、災害情報などの事前共有を図り、早期対応の確認を行う。 			
数 値 目 標 (利用者数)	年 度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
	目標値(人)	37,000	37,000	—	—
労働条件・環境	■適 □否	否の場合の内容と対応			